

第3章 “松島の風景”の構成と価値

第1節 “松島の風景”の成り立ち

“松島の風景”は多様な成因をもつ環境が重層的に形成したもので、その基盤は自然環境である。陸上・海上の様々な形をした岩もさることながら、このあたり一帯に広がる^{ひだ}襞の細やかな丘陵地形も松島の特徴の一つである。さらにそれを多様な植物が覆い、特に島々や海岸砂丘を覆うマツが、絵に描いたような印象的な風景をつくっている。

基盤となる自然環境の上では、遙か昔から漁業や農業によって人が生活を営んできた。この結果、松島では自然と深い関わりの中で、歴史的に自然と調和した里山里海環境が形成されている。この自然環境と里山里海環境が織り成す風景が、文学や絵画などで描写されてきた。

現代ではこの里山里海環境に加え、人工的な都市的環境もみられる。特に東日本大震災後は、機械力でもってこれまで人が住んでいなかった丘陵にも、従来の景観に配慮されながら住宅地が造成された。こうした自然環境・里山里海環境・都市的環境が時間の経過によって重なり、現在の“松島の風景”を形成している。

第2節 “松島の風景”を構成するもの

松島は、大正12年(1923)の指定理由で、「数百の島嶼一湾の内に基散し崖上の松樹水面に映して風致を添う」、「島嶼には其の形状同一なるものなく(中略)周囲は概ね絶壁を成し(中略)地層井然として露はれ」、「青松の島嶼に成長するも姿態亦千差萬別にして共に景趣お加ふる」とされ、「一湾内に多数の島嶼散布し何れも特異の形状を呈するは此類を見ざる所なり」とまとめられている。また、国指定名勝の指定基準¹³によれば、その要点は「八 砂丘、砂嘴、海浜、島嶼」及び「十一 展望地点」にある。このことから、“松島の風景”とは、指定当初から近年に至るまで、島嶼、海岸、マツ林などがつくる自然と眺望に、その本質があるとされていた。

しかし、大正12年の名勝指定からおよそ100年が経過した現在、第1節で示した成り立ちを踏まえると、“松島の風景”とは、自然のみではなく、自然とともに暮らす人々の日常や、これまでの歴史も含めたものとして観賞されていると考えなければならない。つまり“松島の風景”は、「自然」と、「自然とともにある暮らしと歴史」が織り成す風景、それを眺める「観賞の場」によって構成されている。

これは、例えば「自然」は島嶼・丘陵や海食崖などの地形・地質、マツ類といった植生がその特徴として挙げられる。「自然とともにある暮らしと歴史」は、地域固有の伝統的な自然と人との関係を表現しており、各浜の漁村など松島らしい風景となっているもののほか、史跡など成り立ちを示すものが挙げられる。「観賞の場」は、感動体験によって風景イメージを共有できる各地の場所と、そこからの眺望がある。

以下では、松島の「自然」「自然とともにある暮らしと歴史」「観賞の場」の具体例を紹介する。

第3節 松島の自然

松島における自然環境の成り立ちの主体は、島嶼、丘陵、海食崖、砂浜、湿地などの地形と、その基盤となる地質、そしてマツ林などの植生である。これらは観賞者に感動を与える“松島の風景”の根幹として不可欠であり、その概要は以下の通りである。

1 地質・地形

湾内に散在する多数の島嶼と多様な海岸線、多島海を取り囲む丘陵が挙げられる。これらは地質・

13 『国宝及び重要文化財並びに特別史跡名勝天然記念物及び史跡名勝天然記念物指定基準』(昭和26年文化財保護委員会告示第二号)

地形を基盤とするものである。

(1) 松島の地質・地形の成り立ち

島嶼と丘陵を構成する地層の形成は新生代中新世前期にさかのぼる。約2,300万年前、現在の日本列島を含むアジア大陸東縁の広範囲で火山活動が活発となり、松島周辺でも溶岩、火山砕屑岩、火山灰が陸地や周辺の浅海に堆積し、シルト岩などの砕屑岩と互層を形成した。これらの地層は、第四紀にはほぼ完全に隆起し、陸上に姿を現した。この時から約2万年前の最終氷期が終わるまでの景観は現在とは全く異なる様相であった。当初の準平原地形は、緩やかな隆起運動を経て、深い谷が刻まれた丘陵地となった。谷の浸食は松島湾周辺地域の北北西-南南東方向及び東北東-西南西方向の断層や節理に沿って生じ、複雑に交差する谷が刻まれ、多数の鞍部をもつ尾根がそれらの間に残された。松島の多島海の形成は、この約2万年前までに形成された地形とその後の海水準変動に関連している。最終氷期最盛期の海面は現在より約100m低かったが、氷期の終了（地球全体の温暖化）に伴って海水準は徐々に上昇し、約6,000年前には現在とほぼ同じ高さに達した。この海は上記の複雑な谷に入り込み、鞍部を水没させ、断続する尾根部分を島として残す多島海をつくった。

(2) 松島の地質

松島の地質は新第三紀とよばれる約2,300万年前から約260万年前に形成された地層が中心となっている。松島湾域西側には、それよりも古い三疊紀利府層が分布し、新第三紀の地層に不整合に覆われている（第3-1表・第3-2図）。

新第三紀中新世の地層は松島湾層群と志田層群からなり、これらは不整合の関係にある。このほか、周辺には新第三紀鮮新世、第四紀の地層が分布する。松島の地層は以下i~vに要約される。

i 三疊紀 利府層

利府町浜田の北東から赤沼付近に分布しており、本地域の基盤となっている。主に粘板岩、砂岩からなる。

ii 新第三紀中新世 松島湾層群

松島湾の全域に分布する。下位から塩釜層、佐浦町層、網尻層、松島層、東宮浜層、大塚層に分類される。塩釜層と上位の佐浦町層は松島湾の北西部に分布する。火山角礫岩など火山噴出物を主体とする陸成層で、層厚はそれぞれ250m、240mである。網尻層は佐浦町層に重なり、下部は凝灰岩と砂岩、上部はシルト岩と砂岩からなる海成層で、最大層厚が250mである。松島層は水中堆積した貝化石を含む凝灰岩で、最大層厚は400mである。東宮浜層は下位の松島層の走向に斜交しており、松島湾の南西部のみ分布する。また東方に向かって細粒となり、湾北東部にはみられないので、シルト岩が堆積する海域に西から流入した水中火砕流で形成されたとみられる。松島層に整合に重なり、下部が東宮浜層と一部指交関係にある大塚層は、海成のシルト岩・砂岩の互層で、最大層厚は300mである。

第3-1表 松島湾の地層

地質時代		層序区分	
第四紀	完新世	沖積層	
	更新世	河岸段丘堆積物 花刈層	
新第三紀	鮮新世	放森層	俵庭層
			表沢層
		志田層群	竜の口層
			亀岡層
			大松沢層
	中新世	後期	番ヶ森山層
			鹿島台層
		中期	幡谷層
			三ツ谷層
			根古層
前期	松島湾層群	大塚層	
		東宮浜層	
	松島層群	松島層	
		編尻層	
		佐浦町層	
白亜紀?	三疊紀	塩釜層	
		利府層 500m (岩脈)	
		追戸層	
		利府花崗岩類	

「松島町史 通史編I」第1章 松島の自然を参考に作成



松島層



東宮浜層



大塚層

iii 新第三紀中新世 志田層群

主に松島湾の北西部に分布し、松島湾層群を傾斜不整合で覆う。全体に細粒～中粒砂岩の浅海成堆積物よりなる。下位より三ツ谷層、幡谷層、番ヶ森層で構成される。

iv 新第三紀鮮新世 放森層

松島湾周辺地域で志田層群と不整合に重なる鮮新統は、指定地内では利府町付近の砂岩を主体とした放森層がみられる。

v 第四紀

段丘堆積物や島々の入り江、川沼付近などに広く分布する低湿地堆積物が中心となる。松島の島々は、これらの地層のうち、主に松島湾層群の上部層である松島層、大塚層で構成されている。松島層は凝灰岩、大塚層はシルト岩がそれぞれ主体をなす。これらの地層は松島湾内では北西－南東の走向をもち、ゆるやかな背斜、向斜構造を繰り返しながら分布する。軽石質凝灰岩からなる島の海食崖下部では、波食によるノッチが発達し、凝灰岩とシルト岩の互層からなる島には節理や断層に沿って海食洞などがみられる。この凝灰岩は、かつて野蒜石や塩竈石と呼ばれ、建築用石材として用いられた。

(3) 松島の地形

地形は“松島の風景”の基盤として、特徴的な多島海の島々のみならず、背景となる丘陵や、アクセントとなる海食崖や砂丘など、全てに関係する。

i 島嶼

島嶼は松島の核心である。湾内には通常島と認められるものが約 230 あり、岩礁まで含めると 280 ある。島々は浸食されやすい凝灰岩質又はシルト岩質の岩石からなるため、急峻な海食崖に囲まれている。各島の大きさは、長径 1 km 以上が宮戸島、寒風沢島、桂島、野々島の 4 島のみで、その他の島は長径 100 m 未満である。また、標高が 100 m を超える島は宮戸島のみで、他は全て 60 m 以下である。

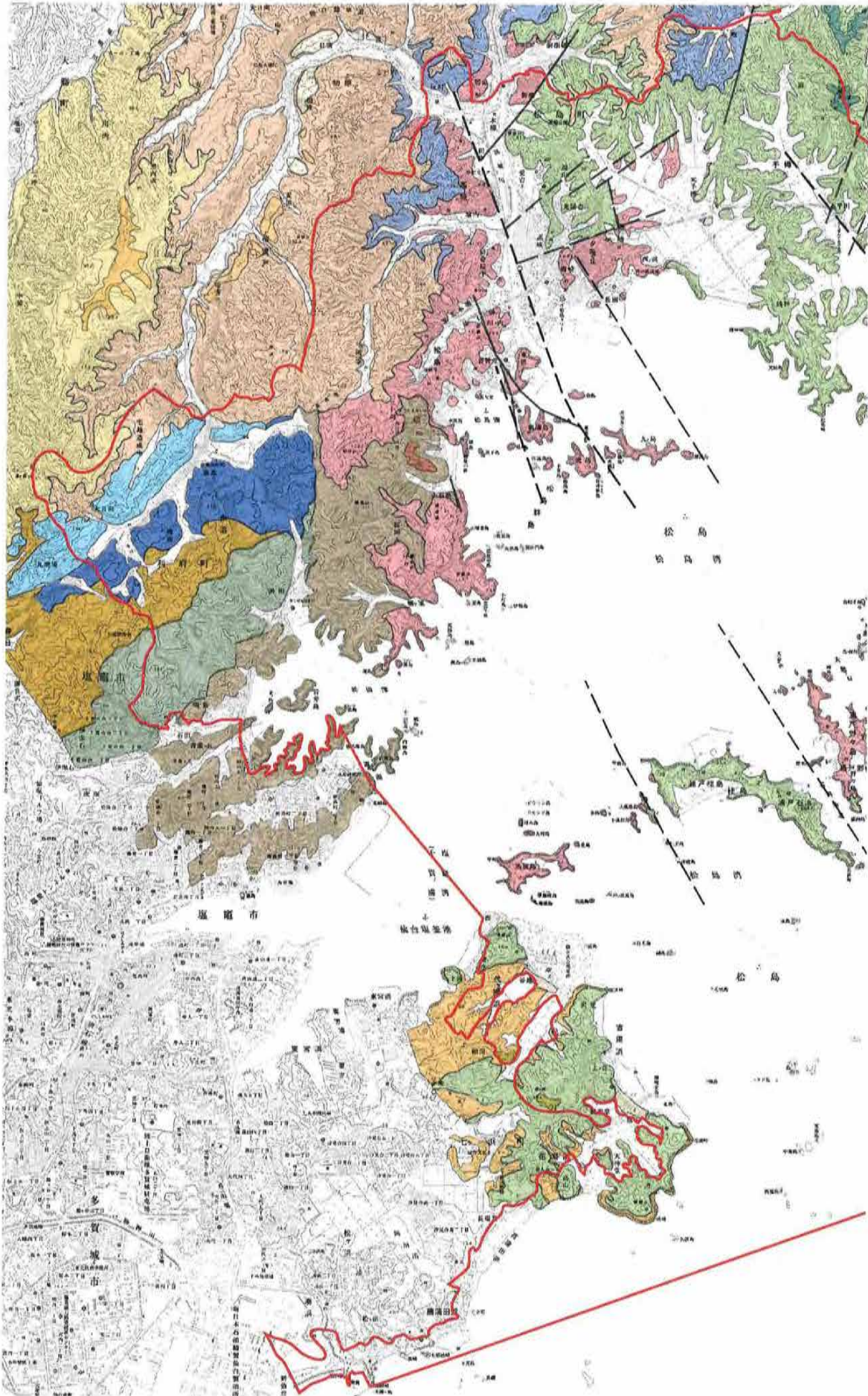
その中で標高 30 m を超える島は桂島、唐戸島、大森島、焼島、寒風沢島、木ノ島の 6 島であり、標高 20～30 m が 17 島、10～20 m 未満の島は 45 島、標高 10 m 未満は 173 島である。全体の 90% が標高 20 m 未満の島で構成されている。

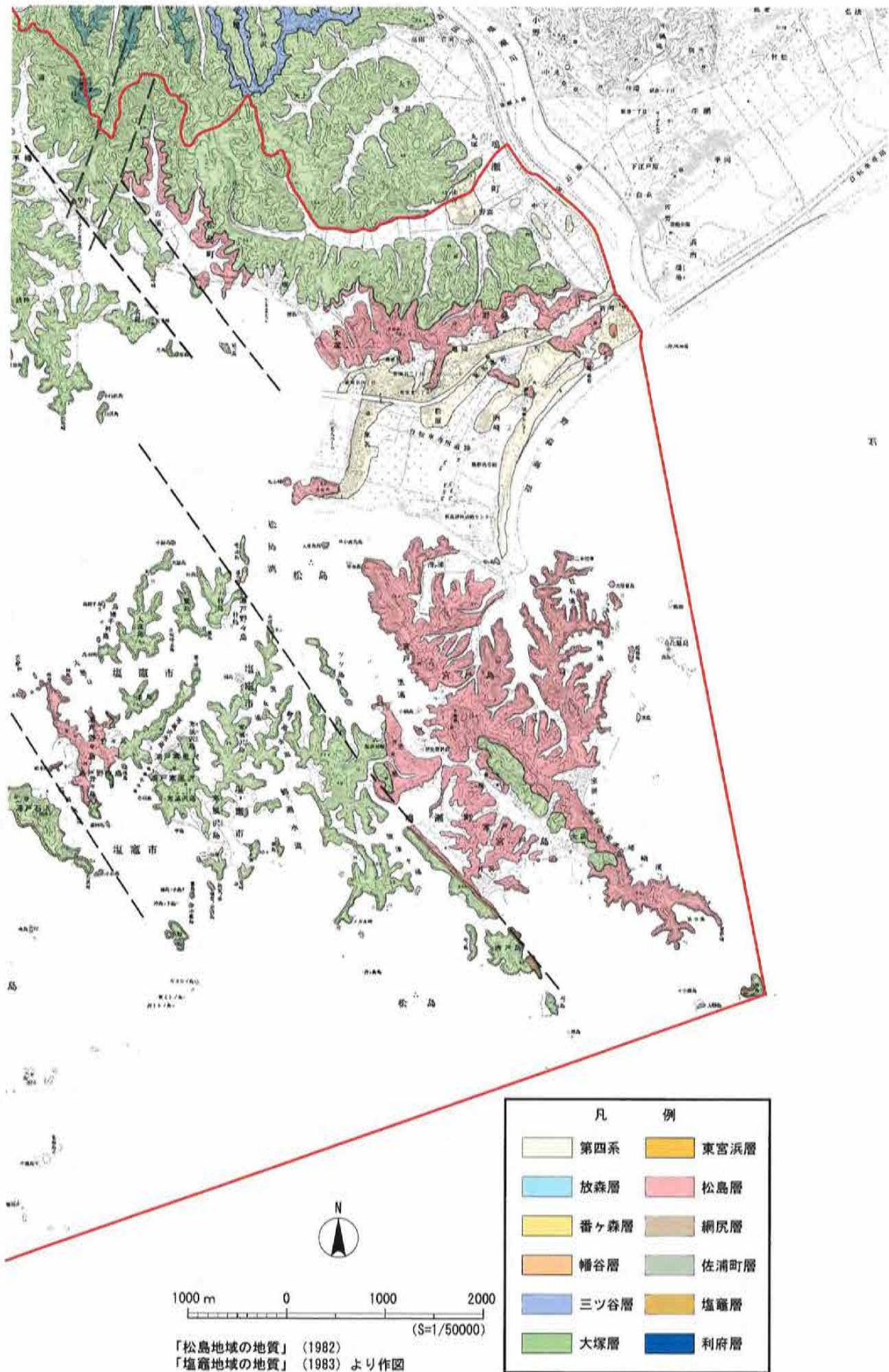
ii 丘陵

松島湾を取り巻く丘陵は海拔 100 m 程の高さで、起伏・傾斜ともに緩やかで、概ね頂高の揃った丘陵といえる。松島湾を取り囲むことで外界を遮断するとともに、重要な背景としての役割を担っている。丘陵斜面が豊かな緑に覆われることで、空と青とのコントラストを生み出している。

iii 海食崖

海岸線と、一部の内陸部に取り込まれた海食崖から、かつての海岸線を知ることができる。松島の島々





第3-1図 特別名勝松島の地質

は乳白色の凝灰岩やシルト岩等からなっており、海食でむき出しとなった岩の白さと木々の緑、海の青とのコントラストが奇観の一部を構成している。また、宮戸島の嵯峨溪のような外洋に面した海食崖は、動的で独特の景観である。

iv 砂浜

砂浜は主に外洋に面した海岸にみられる。野蒜の洲崎浜は比較的広く、七ヶ浜半島・宮戸島・寒風沢島・桂島の外洋側の海岸には小規模な砂浜が多い。

野蒜の洲崎浜や東名の砂浜は、沿岸漂砂の供給によって海浜砂堆が形成され、陸と島、あるいは陸と陸を繋ぐように延びていることから、陸繋砂州と呼ばれている。これは明治時代以降急速に成長し、東名の丸山や野蒜海岸の背後で「陸の松島」と呼ばれる景観をつくり出している。また、宮戸島には「竹浜の鳴砂」や「室浜の鳴砂」と呼ばれる石英砂を高い割合で含む砂浜もある。

v 湿地

東松島市野蒜の洲崎浜の西側には湿地帯が広がる。この湿地は洲崎浜の形成にも深く関わっており、砂州の発達で潟となり、さらに封じ込められて湿地化したものである。また、震災で被災した東松島市宮戸字大浜の農地のうち海岸から谷奥までの約 2.5 ヘクタールが、大浜田湿地として景観向上のため環境整備されている。

vi 河川

松島湾に注ぐ河川は少なく規模も小さい。流路延長 12 k mの高城川が最も大きな河川である。このため湾内への土砂の流入が少なく、多島海の地形が保持されている。

vii 海底地形

松島湾の海底は中央部が水深 3～3.5 mで最も深く、周囲に向かって浅くなる盆状の形態をしており、島々の間は潮流によって海底が掘り込まれている。また、外洋に通じる海域では部分的に水深の深い複雑な樹枝状の谷が認められ、海面下に沈む前の地形の姿をとどめている。



島嶼



丘陵



海食崖



砂浜



湿地



河川

2 植生

(1) 松島の植生の特徴

松島の植生は、海と空の青さ、海食崖の白さとのコントラストの中に映える緑色のアクセントとなっている。

松島の植生で代表的なものは、アカマツとクロマツである。アカマツとクロマツは、表土が薄く、乾燥して貧栄養な立地で優勢となる常緑針葉樹で、潮風や波浪にも耐えて島嶼や丘陵の海食崖に立つすがたは、日本人の自然観を象徴するものといえる。

他にも、植生の特徴としてタブノキやヤブツバキ、シロダモなど、四季の変化が顕著な落葉植物を基調としながらも、暖地系常緑植物を豊富に内包する植物群落が数多く存在することが挙げられる。これには冬季の寒冷・乾燥が緩和される海洋性気候と地形的構造が強く作用している。

それから、変化に富んだ立地及び人々の生業の歴史が、多様な植物群落の形成と、それらによるモザイク状の配置を促して、箱庭のような景観、地域生態系を生み出していることがある。浅土上のマツ林をはじめ、社寺に付随するタブノキ林やモミ林、海食崖に点在するコハマギク群落といった自然度の高い植物群落と、かつては薪炭や用材、養殖用資材などの生産を担ったコナラ林やスギ植林、竹林、あるいは日常的に生産活動が展開される水田や畑地、住宅地といった履歴や利用形態によって異なる植物群落が近接しあっている。

(2) 植生の構成

植生は、「第6回・第7回自然環境保全基礎調査 植生調査」(環境省自然環境局生物多様性センター、1999～2009)にしたがい、松島の景観形成に係わる植物群落を抽出した上で、それらの概要や分布について整理した(第3-2図、第3-2表①～⑫)。

次に、①～⑫の多様な植物群落の中から、“松島の風景”における特徴的な構成を、i～viiiの8タイプの自然植生として示した(第3-2表①～⑧に対応)。松島の景観形成に係わるこれら8タイプ植物群落は、松島の特徴的な地形に由来する岩壁・砂地・森林土壌といった基質、及び海水・汽水・淡水といった水環境による「入り組んだ立地」に対応して、モザイク状に分布している。この構造・環境・在り方の仕組みが松島の自然環境や生態系を豊かなものとし、水質の浄化や土砂流出の防止、海洋生物の育成といった生態系サービスを生み出している。したがって、単に緑のボリュームを維持するだけでなく、植物群落の多様性とそれを支える立地の維持が求められる。また、これらに係わる天然記念物(第3-3表)は個別に価値を有するとともに、景観上の価値を高めるものである。なお、本計画では紹介していないが、水界の環境や漁業とのかかわりがある海草・海藻が繁茂する藻場、特にアマモやアカモクが優占する群落も、今後留意する必要がある。

i マツ林(第3-2表①)

マツ林にはクロマツ林とアカマツ林があり、ともに松島で最も広い面積を占め、景観を構成する代表的な植生である。しかし、マツ林は養分や水分の少ない砂土や凝灰岩の風化した浅土の上に生育したきわめて脆弱な植物群落でもある。このうち、クロマツ林は防潮・防砂を目的とした海岸防災林など、人工林として育成されたものも多く、人と自然とのかかわりを物語るものとして重要である。

i-① クロマツ林

クロマツは耐塩性が高いことから、外側島嶼群の潮風が激しい岬端や海食崖肩部などに生育する。また、海岸防災林として植栽・育成されている。

i - ② アカマツ林

アカマツ林は松島湾の沿岸や島嶼の大部分を覆い、天然林が主体となっている¹⁴。厳しい環境条件下では生育が阻害されて矮生樹・偏形樹となるが、それが独特の景観を生み出している。

ii 常緑広葉樹群落 (第3-2表②)

発達した森林としては、タブノキ群落¹⁴が宮戸島や寒風沢島などの外洋側島嶼にあり、自然景観に緑の深みを与えている。タブノキの樹冠下では、シロタモやヤブツバキ、テイカカズラ、マサキ、ヒサカキ、オオバジャノヒゲ、ヒメヤブなど多くの暖地系常緑植物が各階層で優勢となる。ほかに、マサキトベラ群集は、外洋に面した浅土の凝灰岩地に生育する。樹高1~2メートルの低木林である。

iii モミ林 (第3-2表③)

モミ林は松島地域の気候的極相林とみなされている¹⁵。富山付近のほか、人の手が加わることが少ない福浦島などにわずかに残存している。特に、富山付近では大径のモミにイヌブナ、イヌシデなどが混交し、原生林の面影を残した貴重な森林が認められる。

iv ケヤキ林 (第3-2表④)

ケヤキやイタヤカエデ、アカシデといった落葉広葉樹が優占するケヤキ林も、本地域における極相林の1タイプとみなされる。外洋側の島嶼を中心に海岸に近い急斜面や谷頭、崖錐にしばしば巨木を交えて生育している。

v 落葉広葉樹二次林 (第3-2表⑤)

松島湾内の比較的大きな島嶼や陸域沿岸部の丘陵に広く分布する。クリやコナラ、カスミザクラといった落葉広葉樹が優占し、モミやアカマツなどの針葉樹がしばしば混交する二次林¹⁶である。占有面積が大きく四季の変化が顕著な点で、松島の景観に大きな影響を与えている。

vi 岩壁植生 (第3-2表⑥)

面積的には狭いが、海岸の海食崖に分布するコハマギク群落やラセイタソウハマギク群集、そして内陸の岩壁に認められるキツタやマメツタ、ミツデウラボシなどが生育する特異な群落である。海食崖を彩る植生として貴重である。

vii 砂浜植生 (第3-2表⑦)

洲崎浜や菖蒲田浜をはじめ、宮戸島や寒風沢島など外洋に面する海岸の砂浜で見られる。厳しい環境条件を反映してハマニンニクやコウボウムギ、ハマヒルガオ、ハマナスといった特異な植物からなり、波打ち際から内陸に向かって一定の順序で生育している。

viii 湿原・河川・池沼植生 (第3-2表⑧)

洲崎浜西側の湿原には、ヨシや塩生植物であるシオクグの群落がみられ、原生植生の面影をとどめている。また、各所に散在する小規模な入り江や河川、池沼でもヨシやガマ、ハンノキ、ヤナギ類、ヒシなどの湿性・水生植物が認められ、野生動物の生息や水質浄化に貢献している。

14 天然林：人間の関与なしに自然状態で形成・更新される森林のこと。

15 極相林：長い歳月をかけて、その場所の気候や地形、土壤環境に合致するよう遷移し、最終段階に至った天然林のこと。（「一次林」ともいう）

16 二次林：極相林以外の森林。災害や伐採、山火事などで破壊されたのち再生し、遷移途上にあるさまざまな森林のこと。

第3-2表 特別名勝松島及び周辺の陸域植生の概要

植生型		主な植物群落	概要
①マツ林	①-1 クロマツ林	クロマツ植林	常緑針葉樹のクロマツの植林。耐塩性が強いことから海岸砂丘の防潮林、沿岸地の用材林として植栽されたもの。
	①-2 アカマツ林	アカマツ群落	尾根や斜面上部の土壌の浅い、乾いた立地に広く分布する常緑針葉樹林。
②常緑広葉樹群落		タブノキ群落	向陽の適潤地に成立する常緑広葉樹の自然林で、タブノキが優占し、林内にヤブツバキ、ヒサカキ、イノデ類が生育する。
		マサキ-トベラ群落	海岸砂丘や海食崖の風衝地に成立する常緑広葉樹の低木群落。マサキ、トベラ、マルバシャリンバイ等が混生する。
③モミ林		シキミ-モミ群集	暖地系常緑針葉樹と常緑広葉樹の混交林。モミ、カヤ、シキミ、ヤブツバキ等が混生する。
		アオハダ-モミ群集	落葉広葉樹のクリ、コナラ、シデ類と常緑針葉樹のモミなど、さまざまな植物が混生する。
④ケヤキ林		イロハモミジ-ケヤキ群集	岩壁や岩角地に成立する落葉広葉樹の自然林。ケヤキ、イロハモミジが優占し、時にタブノキを伴う。
		オオモミジ-ケヤキ群集	湿潤な砂礫土から成る斜面下部や溪谷沿いの崖錐に成立する落葉広葉樹の自然林。ケヤキ、オオモミジが優占し、アワブキ、エゾエノキ等が混生する。暖地系の常緑植物をほとんど含まない。
⑤落葉広葉樹二次林		クリーコナラ群集	丘陵地に成立する落葉広葉樹の二次林。高木層ではコナラが優占し、クリ、カスミザクラ等が混生する。いわゆる薪炭・雑木林で定期的伐採により維持されてきた。
		オニグルミ群集	河岸、法面、崩積斜面等に先駆的に成立する落葉広葉樹の二次林。オニグルミが優占し、河岸ではエノキ、ニセアカシア等が混生する。
		ニセアカシア群集	北米原産のマメ科植物ニセアカシアの植林または逸出による二次的な群落。河川敷、海岸砂丘、崩落地、伐採跡地等に生育域を広げている。
⑥岩壁植生		コハマギク群落	海岸断崖に成立する多年生草本植物群落。コハマギクだけ優占することが多い。
		ラセイタソウ-ハマギク群集	海岸断崖に成立する風衝草原。ハマギクやラセイタソウ等が点々と生育する。
⑦砂浜植生		砂丘植生	海岸砂丘に形成される矮生低木群落または草本群落。低木のハマナス、草本のコウボウムギ、ハマニンニク等が帯状に優占する。
⑧湿原・河川・池沼植生		ハンノキ群落	湿地の周辺、池沼畔、後背湿地等で、常時冠水する過湿地に成立する落葉広葉樹の自然林。
		ヤナギ高木群落	河川の上・中流域の河畔、低湿地等に成立する落葉広葉樹の自然林。シロヤナギ等が優占する。
		ヨシクラス	水位変動や流動水が少なく、底質が泥や粘土質で、一般に富栄養な水に潤される低湿地に成立する低層湿原。ヨシ、マコモ、各種のスゲ類等が生育する。
		ミゾソバ-ヨシ群落	水田放棄地、河畔の造成地等、富栄養化した湿地に成立する二次草原。ヨシが優占し、群落内にはミゾソバ等の好窒素性植物が混生する。
		オギ群集	河川下流域の淡水湛水地で、排水のよい砂質土壌上に成立する多年生草本植物群落。オギが優占する。河川改修で冠水頻度が減少した場所で、ヨシに代わって面積を拡大している。
		ヒルムシロクラス	池や沼、浅い湖、旧河道等の淡水の湛水域に成立する水生植物群落。
		シオクグ群集	満潮時に冠水する河口や潟湖の泥質塩性に成立する短茎草原。シオクグが密生し、単純な群落を形成する。

植生型	主な植物群落	概要	
⑨針葉樹植林	スギ・ヒノキ・サワラ植林	常緑針葉樹のスギ、ヒノキ等の植林。単独で植栽されることが多く、広い面積を占める。	
	カラマツ植林	落葉針葉樹のカラマツの植林。一般に、高海拔の寒冷地に植林される。	
⑩竹林	竹林	モウソウチク、マダケ等の竹林。人家付近に小面積で分布していたものが、管理不足から周辺の植林地や二次林内に生育域を広げている。	
⑪二次草原・低木群落	ススキ群団	放置された畑地や採草地、火入れ地、海岸の風衝地、湿地が陸化した立地等に成立する多年生の高茎草原。ススキが優占し、トダシバ、ツクシハギ等が混生する。	
	伐採跡地群落	森林の伐採跡地に成立する草本群落、または高さ1m前後の落葉広葉低木群落。キイチゴ類、タラノキなど先駆植物が優占する。	
	アズマネザサ群落	向陽地、伐採跡地、河川堤防等に成立するササ群落。アズマネザサが優占することが多い。	
⑫耕作地植生	⑫-1 水田	水田雑草群落	水田に成立する雑草群落。
		放棄水田雑草群落	水田放棄地に成立する高さ2m以下の草本植物群落。ミゾソバ、イグサ、コブナグサ等から成る。
	⑫-2 畑・果樹園	畑雑草群落	畑地及び畑地放棄地に成立する草本植物群落。シロザ、ツユクサ、スベリヒユ等の1年生植物を主要構成種とする。
		果樹園	高さ2m以上の果樹が栽培される樹園地、または茶畑。桑畑や苗木畑も含める。畑雑草や路傍雑草が生育することが多い。
		路傍・空地雑草群落	都市と周辺域の空地や造成地に成立する高さ1m以下の草本植物群落。セイタカアワダチソウ、ヨモギ、クズ等が生育し、帰化植物が多い。
	⑫-3 牧草地・ゴルフ場・芝地	牧草地	播種後、刈り取り等で管理される高さ1.5m以下の人工草地。牧場、採草地、法面等の人工管理下にある草地を含む。
		ゴルフ場・芝地	頻繁な刈り取りにより維持されている植生10cm以下のシバ草地。



①マツ林



②常緑広葉樹群落



⑤落葉広葉樹二次林

第3-3表 特別名勝松島内の天然記念物（植物）

名称	員数	内容	所在地	所有者	指定年月日
瑞巖寺の臥竜梅	2本	紅梅 幹周2.3m、樹高8m 白梅 幹周1.5m、樹高6m	松島町字町内	瑞巖寺	県指定天然記念物 (平成9年5月9日)
瑞巖寺老杉	4本	幹周8~8.8m、樹高32m	松島町松島字町内	瑞巖寺	町指定天然記念物 (昭和45年12月1日)
いぶきびやくしん	1本	幹周1.8m、樹高3m、 樹齢約700年	松島町字町内	個人	町指定天然記念物 (昭和45年12月1日)
富山・杉	1本	幹周3.8m、樹高45m、 樹齢約400年	松島町手樽字三浦	大仰寺	町指定天然記念物 (昭和45年12月1日)
天麟院・はりもみ	1本	幹周4m、樹高40m、 樹齢300年以上	松島町字町内	天麟院	町指定天然記念物 (昭和45年12月1日)

名称	員数	内容	所在地	所有者	指定年月日
陽徳院・高野槇	1本	幹周 5.2m、樹高 32m	松島町字町内	陽徳院	町指定天然記念物 S45.12.1
松島せっこく	—	瑞巖寺中門前東側老杉に2株着生	松島町松島字町内他松島湾一帯	瑞巖寺他	町指定天然記念物 H7.9.29
むろの木 (イブキビャクシン)	1本	幹周 4.5 m、樹高 15m、樹齢約 700年	東松島市宮戸字大室	個人	市指定天然記念物 S50.4.30
宮戸島のセッコク	—	ラン科、多年草、指定面積 22.202㎡	東松島市宮戸字大室	個人	市指定天然記念物 H8.7.1
瑞巖寺夫婦榲(夫)	1本	幹周 7m、樹高 25m、樹齢約 800年	松島町字町内	瑞巖寺	町指定天然記念物 S45.12.1
医王寺のカヤ	1本	幹周 3.8m、樹高 20m、樹齢約 300年	東松島市宮戸字里	医王寺	市指定天然記念物 H2.2.26
医王寺のイチョウ	1本	幹周 3.6m、樹高 23m、樹齢約 200年	東松島市宮戸字里	医王寺	市指定天然記念物 H2.2.26
下がり松	1本	幹周 2.1 m、樹高 5.4 m 明治以前に植樹	七ヶ浜町代ヶ崎浜字細田	七ヶ浜町	町指定天然記念物 H2.4.1
扇谷・混合雑木林	3.7 a	モミジやケヤキなど落葉広葉樹が多い。	松島町松島字桜岡入	宮城県	町指定天然記念物 S45.12.1



松島せっこく



むろの木



扇谷混合雑木林

第3-4表 特別名勝松島内のすぐれた植生

名称	内容	所在地
ヤマザクラ自生地	バラ科サクラ属の日本固有種で、松島湾沿岸がヤマザクラの自生する北限となっている。	宮戸島など
ヤブツバキ自生地	宮戸島月浜の稲ヶ崎公園や野々島など島嶼部で自生したものが多くみられる。	宮戸島、浦戸諸島など
湿地景観	東日本大震災後の整備で再生。	野蒜洲崎浜、宮戸島大浜
タブノキ群生林	クスノキ科常緑樹で島嶼部に多くみられる。	桂島神明社周辺、寒風沢島神明社境内など
鼻節神社モミ林	七ヶ浜町内ではこの境内だけにみられる。七ヶ浜町域でもモミ・イヌブナ林が極相であることを示す。	七ヶ浜町花洲浜



ヤマザクラ自生地



ヤブツバキ自生地



湿地景観



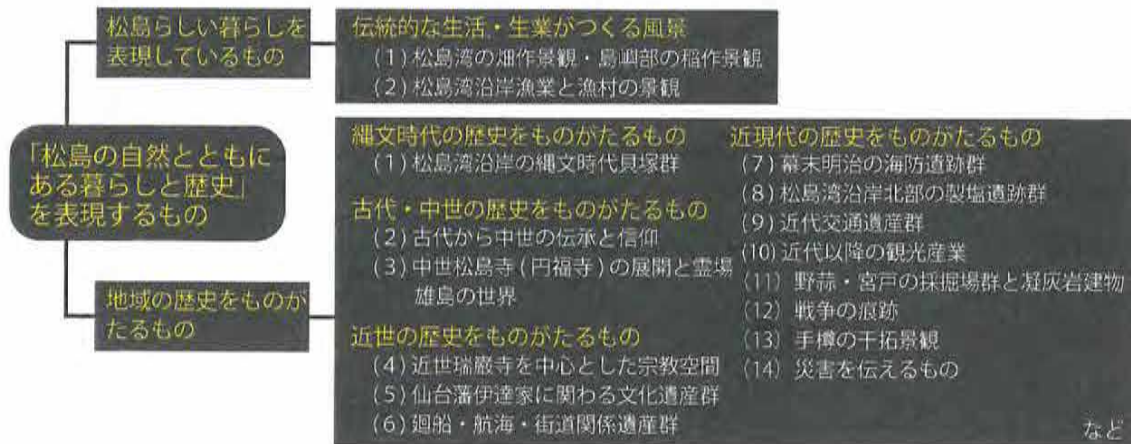
「第6・7回自然環境保全基礎調査」(2000)より作図

凡 例	
①-1 クロマツ林	⑧ 湿原・河川・池沼植生
①-2 アカマツ林	⑨ 針葉樹植林
② 常緑広葉樹群落	⑩ 竹林
③ モミ林	⑪ 二次草原・低木群落
④ ケヤキ林	⑫-1 水田
⑤ 落葉広葉樹二次林	⑫-2 畑・果樹園
⑥ 岩壁植生	⑫-3 牧草地・ゴルフ場・芝地
⑦ 砂浜植生	

第3-2図 特別名勝松島の植生

第4節 松島の自然とともにある暮らしと歴史

自然や歴史文化を反映した人々の営みは、現在も松島の各地域にのこり、魅力的な“松島の風景”を育んでいる。また、これらは地域の多様性を示し、“松島の風景”に奥深さをもたらしている。現在、松島の各地でみられるものについて、松島らしい風景となっているもの、あるいは地域の歴史をものがたるものに分けて例示する。



1 松島らしい暮らしを表現しているものと構成

松島の自然のなかで、人々の生活・生業や地域社会に伝わる信仰・風習などがつくる風景について、その特徴と代表的な構成には、例えば以下のようなものがある。

(1) 松島湾の畑作景観・島嶼部の稲作景観

松島丘陵に囲まれる松島湾は、里山と里海が接する独特な地形を呈し、平地が少ない。そのため、丘陵や島では傾斜を利用した小規模な畑作が行われている。特に島嶼部は陸域から独立していることから、野菜の種を純粋種で交配できる種苗畑として活用された。仙台白菜は馬放島が採種を初めて行ったとされ、現在でも宮戸島、浦戸諸島を中心に伝統野菜として栽培されている。採種のための菜の花畑は観光資源としての魅力ももつ。

また、島嶼部の稲作は、古くから自給自足生活の一部として営まれ、今も寒風沢島南部でみられる。島では入り江や低湿地に天水を貯めて米作りを行っており、冬でも水が抜けない環境から、クロメダカなど絶滅危惧種が生息する生態系が保たれている。

第3-5表 松島湾の畑作景観・島嶼部の稲作景観の構成

宮戸の菜の花畑	東松島市	宮戸	白菜採種のための菜の花畑が見られる。「菜の花の島」と呼ばれ、宮戸島の見どころとなっている。
浦戸の野菜種苗畑と菜の花畑	塩竈市	浦戸桂島・朴島	自然交雑を避け、野菜の種を純粋種で交配できるため浦戸諸島に仙台白菜の種苗畑が開かれた。採種のための菜の花畑は島の見どころである。
手樽の菜の花畑	松島町	松島町手樽	手樽の各地でみられ、特に古浦農村公園周辺の規模が大きい。
寒風沢の稲作	塩竈市	浦戸寒風沢	市内唯一の水田で、天水を貯めて米作りを行う。秋には収穫した稲を天日干しする昔ながらの懐かしい田園風景が見られる。



浦戸の菜の花畑（朴島）



手樽の菜の花畑



浦戸の稲作景観（寒風沢島）

(2) 松島湾沿岸漁業と漁村の景観

松島湾では、近世からノリやカキの養殖が盛んに行われている。浅海内湾の特徴を活かしたノリ・カキの養殖棚が海面を覆う様相は近代以降に形成され、松島の代表的な景観をなす。また、湾奥部ではウナギ・アナゴをとるボダ漬漁などの伝統漁が現在も続けられ、地域の食文化を支えている。漁港や浜の背後にはそれを支える集落が点在し、各集落には倉庫や作業場として利用するため、近くの見食崖を掘り込んだ多数の岩窟（ボラ）がみられる。

こうした生業によって、湾内各地域では船だまりや漁師の働く姿など、日常生活で人と海が結びついた特色ある景観がみられるほか、それぞれの浜や集落には鎮守のための神社や寺があり、共同作業や祭祀などの場となっている。また、現在も浜ごとに獅子舞など独自の文化が多く残り、見食崖を利用した岩窟で少年たちが共同生活を営む年中行事、「月浜のえんずのわり」（国指定重要無形民俗文化財）もそのひとつである。

第3-6表 松島湾沿岸漁業と漁村景観の構成

カキ養殖棚	全域	—	松島湾は全国有数のカキの養殖地である。特に明治時代以降は、広島から技術導入された木材の杭を棚状に組み立てて行う景観がみられる。
東名・浦戸の種ガキ施設	東松島市 塩竈市	東名・浦戸	大正時代から養殖が始まり、大量の種ガキがアメリカに輸出された。現在も主産地として、カキの幼生を付着させる原盤や、原盤に使用するホタテの貝殻が積まれた景観がみられる。
ノリ養殖	全域	—	天然の岩海苔採取のほか、明治時代以降にノリの養殖が発展し、湾内漁業の中心となっていった。湾内では、海底に竹や木を使用した「ひび」が立込まれ、浜に養殖に用いる竹材が立てかけられた景観がみられる。また浜の近くに採取のための竹林が点在する。
ボダ漬漁	利府町	櫃ヶ浦	ウナギ楡葉漬、エビ笹漬など、竹竿に楡葉や笹葉が茂った枝の束をまとめて縄で吊り下げた「ボダ」を地先水面内に仕掛けられた景観がみられる。
宮戸の潮干狩場	東松島市	宮戸字波津々浦	東日本大震災以前の3～5月は、アサリ獲りをする大勢の家族連れで賑わった。
宮戸・浦戸諸島の岩窟群（住居・倉庫・作業場・風呂場・馬小屋ほか）	東松島市 塩竈市	宮戸・浦戸野々島・柏木島	宮戸・浦戸の各島で、崖下などの岩を手掘りで切り開いた岩窟（ボラ）がみられる。宮戸月浜ではえんずのわりのお籠もりの場として使用され、浦戸野々島には「内海長者」などの伝説もある。野々島漁港向かいの柏島（無人島）には、大小のボラがあり、造船場として使われたとされる。
宮戸島の岩窟を利用した祠	東松島市	宮戸字大浜	崖中腹の海を望む場所を穿ち、その中に神仏を納めている。
五十鈴神社・月浜のえんずのわり【国無形】・岩窟（籠屋・風呂場跡）		宮戸字月浜	五十鈴神社は月浜の鎮守。昔某皇子がこの地に行在所を定めた時に勧進したと伝えられる。えんずのわりは、月浜地区に伝承される小正月の鳥追いの行事である。子どもたちが岩屋でお籠もりをしてから、集団で家々を回り、害鳥を追い払う唱え言をいって、一年の豊作や無病息災を祈願する。社の近くには、えんずのわりで使用する岩窟があり、寝泊まりや風呂場として使用されていた。

鹿島神社	東松島市	宮戸字鹿島	室浜の鎮守。寛永年間(1637-1643)に勧進された。本殿は金華山神社建築時の材を使用と伝えられる。
波島のハツテラ様(八大龍王)		宮戸字室浜	大漁をもたらし、漁師を艱難から守る神として祀られた。地元ではハツテラ様と呼ばれている。
熊野神社		宮戸字里浜深海	里浜の鎮守として里浦の小島(都島)に鎮座する。
観音寺本殿		宮戸字門前	文保2年(1318)開基、永正2年(1505)再興。曹洞宗、本殿は慶応元年(1865)の再建。境内に多十郎の碑がある。
大高森山頂の雷神塔		宮戸字大高森	大高森山頂に所在。明治29年(1896)建立。旧暦6月1日に四ヶ浜の区長達が雷神塔に集まり、御神酒を持ち寄って、雨乞いをしたと伝わる。
潜ヶ浦聖観音堂		宮戸字川原	宮戸にたどり着き出家した小夜子姫を夫と子が尋ねたところ、困り果てて鰐ヶ浦に身投げし、観音様になったという小夜子姫伝説があり、堂内に観音像を祀る。
鏡の神社		大塚字大塚	大塚の鎮守。某親王が宮戸浜についたときに、親王の携帯していた鏡を神体とした。
玉造神社・大曲浜獅子舞		大曲上台	玉造神社は、東日本大震災で被災後に再建された。正月には大曲浜獅子舞が奉納される。伊達家の家臣茂庭周防の命により大友源内豊国が大曲浜の住民に獅子舞を指導して奉納したのが始まりと伝わる。
白鬚神社本殿		野蒜字亀岡	野蒜村社。寛永年間(1637-1643)の勧進と伝えられる。東日本大震災で被災し、野蒜亀岡に再建された。
海津見神社		野蒜字亀岡	亀岡の鎮守。地元の浜で引き網に毘沙門天がかかり、その像を祀ったと伝えられる。東日本大震災により被災し、白鬚神社境内に再建された。
野々島熊野神社	塩竈市	浦戸野々島平和田	野々島集落の鎮守。昭和54年(1974)改築。
野々島の六地藏		浦戸野々島	新墓地入り口に並ぶ六地藏。
桂島松崎神社		浦戸桂島神手洗	桂島集落の鎮守。島名の由来である桂大納言の説話がある。境内周辺にはタブノキが繁茂する。
石浜神社		浦戸桂島石浜山神	石浜集落の鎮守。
寒風沢島神明神社		浦戸寒風沢	寒風沢集落の鎮守。平成10年(1998)改築。
寒風沢砲台場跡の小祠群		浦戸寒風沢	船入島弁財天大神、船入島龍神大権現、大根神社の3つの小祠をまつる。鳥居の奉納などがなされ、漁師の信仰を集めている。
寒風沢中月の金上祠		浦戸寒風沢中月	中月の畑地にある。明治4(1871)・5年頃に塚を掘ったところ、古鏡が5面出土。鏡は彦和田の内海兵助家の神棚に祭る。跡地に金山彦神を勧請。
寒風沢の六地藏		浦戸寒風沢	一枚の石に地藏を二体ずつ彫ったものを三枚並べて、その上に長い石で屋根を載せている。
寒風沢の化粧地藏		浦戸寒風沢湊	古くからこの地藏の顔に白粉を塗って祈願すると、美しい子宝が授かると言われており、今もなお信仰されている。
青面金剛像を祀る岩窟		浦戸朴島	岩窟に青面金剛像の石像を祀る。
朴島神明社	浦戸朴島宅地	朴島集落の鎮守。	
吉田神社(本殿・拝殿・長床・鳥居)・吉田浜獅子舞	七ヶ浜町	吉田浜字宮前	吉田浜の鎮守。創建年代は不明だが、古くから鹽竈神社の末社であり、鼻節神社の妃神(天鈿女命)を祀るとされる。吉田浜獅子舞は同社の奉納獅子舞で、明治時代初期に石巻市渡波方面から伝わったとされる。祭礼の日に竜神講を組織し、大漁祈願・家内安全・悪魔払いを祈念して地区の家々を回り歩く。

鼻節神社(本殿・拝殿・長床・神馬廐屋・鳥居)	七ヶ浜町	花刈浜字誰道	花刈浜の鎮守。当初は保ヶ崎に鎮座し、宝亀元年(770)に現在の垂水山(誰道)に移ったとされる。岩礁が続く沖合の安全な航行のために、岬の突端に鎮座する。明治の社殿改修の際、古銅印の「国府厨印」が発見された。鳥居は大正3年(1914)建立。
大根明神・大根明神祭(アワビ祭)		大根	花刈浜東方8km沖合の暗礁で、大根明神として古くから信仰の対象となる。里宮は鼻節神社境内にある。大根明神祭(アワビ祭)は、鼻節神社に大根明神の岩礁付近で採れたアワビを供え、海上安全を祈願するもの。岩礁付近で漁をしていた船の底に穴が開き、沈みそうになった際に船頭が鼻節神社へ一心に拜むと水が引き、後に船底を見ると大きなアワビが穴を塞いでいたという民話が伝わる。
諏訪神社		菫蒲田浜字和田	菫蒲田浜の村鎮守。創祀年代は不明。明治12年(1879)6月に村社に列せられる。7月の例祭では神輿渡御も行われる。祭神の健御名方富命は相撲の起源にまつわる神でもあり、かつては相撲も奉納されていた。
五社明神		菫蒲田浜字招又	倉稻魂命、大己貴命(大国主命)、太田命、大宮姫命、保食神の五神を祭神とする神社。
亀神社(亀霊明神)・浮穴(富結)の貝		松ヶ浜字浜屋敷	「浮穴の貝」伝承に登場する亀を祀ったとされる祠。かつては養松院境内にあったが、現在は個人の敷地内に小祠がある。浮穴の貝は、浜辺で助けた亀が南海の貝(オウムガイ)をお礼として持ってきたという伝承を裏付ける資料で、個人宅に代々伝わる。
孝子権右衛門の碑・鰐鮫頭骨収納箱及び釣針、頭骨		松ヶ浜	鮫に襲われ死亡した父の敵討ちの漁に出て、その鮫を釣り上げた権右衛門を伝えるために明治35年(1902)に建てられた碑と、説話を伝える鮫の頭骨と釣針、収納箱。収納箱の蓋には、藩主伊達重村に命じられた儒学者の田邊親子がこの伝説と収納箱製作の経緯を記す。
磯崎稻荷神社と「塩垢離」神事	松島町	磯崎字磯崎	創祀年代は不詳。往古は石崎明神と称し、社中豊公所贈の国字書を所蔵する。神輿に海水を振りかける「塩垢離」神事が伝わる。



カキ養殖棚



ノリ養殖



ボタ漬漁



浦戸の岩窟群



潜ヶ浦聖観音堂



鼻節神社

2 地域の歴史をものがたるものと構成

“松島の風景”や各地域の成り立ち・歴史を示す代表的な歴史的建造物や史跡などを時代順にまとめ、地域における景観の歴史的な特徴として14項目を例示した。

(1) 松島湾沿岸の縄文時代貝塚群

松島湾は国内有数の縄文時代の貝塚集中地帯である。湾内にある多くの貝塚の中でも、里浜貝塚や西の浜貝塚などは、全国的にも重要な貝塚として評価され、海とともにあった縄文時代のくらしぶりを伝える。

第3-7表 松島湾沿岸の縄文時代貝塚群の構成

里浜貝塚【国史跡】	東松島市	宮戸里浜	縄文時代前期から弥生時代中期にかけての集落跡で、国内最大級の規模を持つ。
西の浜貝塚【国史跡】	松島町	磯崎字西の浜ほか	縄文時代前期から晩期、弥生、古墳、古代の遺構・遺物が出土する。長期間にわたる遺跡。
大木団貝塚【国史跡】	七ヶ浜町	東宮浜字西大木ほか(指定地外)	縄文時代前期から中期にかけての大規模な環状貝塚。東北地方南部の縄文時代の標式遺跡のひとつ。

(2) 古代から中世の伝承と信仰

古代陸奥国府の湊(国府津)に至る航路や、中世多賀国府の入口の一つであった松島は、和歌の歌枕の地であるとともに、多島海の美しい「勝地」松島の彼方に、東方浄土が想起された。各地には古代から中世にかけて信仰や伝承が今も残っている。

このひとつには、東北地方各地にのこる円仁(慈覚大師:794-864年)の寺院創建の伝承が挙げられる。円仁伝承の背景には、平安時代における天台宗の教線拡大が想定出来る。

また、松島には諸国を旅した西行(歌人・僧:1118-1190)など、都の貴族に係わる伝承も各地にみられる。

第3-8表 古代から中世の伝承と信仰の構成

松島寺跡(延福寺)	松島町	—	円仁により、天長5年(826)に創建されたという伝承がある。
湯ノ原温泉		松島字湯ノ原	松島寺(延福寺)創建の頃、円仁が水源を発見したともいわれる。小野小町の疱瘡の治療や、瑞巖寺の寺男にかかわる伝説がある。
葉山神社		松島字葉山沢	松島寺創建に関係する社ともいわれ、瑠璃光如来を本尊としている。社殿の後ろに葉山清水という泉があり、水が清くひでりにも枯れることがないという。
西行戻しの松【町史跡】		松島字犬田	松島滞在中の西行が、松島明神の化身である老翁との対話のなかで浅学を恥じて、松島を辞去した伝説を持つ地である。
紫神社		高城字城内二	松島町の総鎮守。平安時代天長年間(824-833)には松島に鎮座していた。治承4年(1180)に現在地に遷座し、源義経が武運祈願で訪れた際、村崎を紫雲山に因んで紫にしたと伝わる。
松島明神跡		松島字道珍浜	新富山の中腹にあり、現在の紫神社の前身とされる。
白坂不動・白坂不動の岩窟		高城字居網沢	京都伏見の法印白麟が永禄年間(1558-1570)に不動明王を安置したと伝わる。白坂不動の小堂の背後に掘った岩屋に3体の仏像が安置されており、白坂不動井戸がある。地元では奥の院と呼ばれている。
医王寺本堂・医王寺薬師堂【市有形】・薬師堂下の岩窟	東松島市	宮戸字里	京医王寺本堂は真言宗。天長元年(824)の開基で、貞享2年(1685)に中興された。藩より寺領として田1町4段8畝、畑3反、山林3反が寄進されている。医王寺薬師堂は、真言宗京都智積院の末寺。建築年代は不詳だが、円仁作の本尊が安置されたという伝承があり、石灯笼銘から延宝5年(1677)頃まで遡る可能性もある。方二間(正面のみ三間)、宝形造、棧瓦葺。薬師堂下には、薬師如来像が漂着した際に最初に祀られた岩窟がある。

大浜のお筆室	東松島市	宮戸字大浜	護良親王が宮戸に滞在していたとき、筆に使用していた「むろ（イブキビャクシン）」の枝を地面に挿したところ、根が生えたという伝説をもつムロの大木で、唐船番所の足輕詰所跡の傍らにある。
里浜の沖の井跡		宮戸字里浜	義良親王がこの地に参ったときに飲み水を求めたとの伝承が残る井戸。京都四条の沖の井に似ているところから名付けられた。
湊浜薬師堂	七ヶ浜町	湊浜字砂山	仁寿2年(852)に円仁が勧請したと伝わり、本尊は七薬師如来で円仁作とされる。湊浜の村鎮守。洞窟内に鎌倉初期と伝わる磨崖仏4体が本尊として現存し、宮城郡三薬師に数えられている。
春日神社	利府町	(指定地外)	藤原氏の祖神が祭られている。承和10年(843)に陸奥出羽按察使藤原富士麿が多賀城に赴任した時、大和国の本社から分霊し、塩釜の上野原につくられた後、小野田改め今の春日に移されたと伝わる。
染殿神社と赤沼		春日字寒風沢	染殿神社は、平安時代に起源があるとされるが、詳細は不明。赤沼には平安時代にこの地に滞在した高貴な女性が染め物の技術を伝え、後にこれを称えて滞在地跡に堂を建てたという貴種流離譚がある。

(3) 中世松島寺(円福寺)の展開と霊場雄島の世界

12世紀に平泉藤原氏の庇護下にあった延福寺は、鎌倉幕府と平泉藤原氏の奥州合戦(1189)で源頼朝に味方した。13世紀半ばになると、延福寺は鎌倉幕府の執権・北条時頼によって、強制的に禅宗寺院(円福寺)に改められ、関東御祈禱所となる。

13世紀後半には死者を供養する板碑の造立文化が松島にもたらされ、円福寺背後の崖面や海岸部、雄島で立てられていく。板碑の造立によって、松島は浄土の入口となる霊場の空間がつくられる。

現在の松島には、雄島の頼賢碑をはじめとして、石碑や石窟、石造物群などが数多くのこり、当時の多様な宗教活動や人々の信仰の様子を示している。

第3-9表 中世松島寺(円福寺)の展開と霊場雄島の世界の構成

中世円福寺の遺構	松島町	松島	瑞巖寺の地下に広がる中世円福寺に係わる遺構群。本堂改修時の発掘調査では、鎌倉から室町時代の四半敷をもつ瓦葺き礎石立建物跡が発見されている。
覚満禅師墓碑および防火石		松島字町内	覚満禅師(空巖覚慧)は瑞巖寺の前身である円福寺第6世住職で、鎮火の術を行った伝説があり、防火石はその時に水を注いだ石とされる。
円福寺(現瑞巖寺)周辺と海岸の板碑群		松島	現在の天麟院霊廟背後の岩窟、瑞巖寺から海岸にかけて約60点、文永10年(1273)から貞和4年頃までの造立が確認できる。
雄島の板碑・岩窟群		松島字町内(雄島)	13世紀後半から造立が始まったと考えられ、72点が確認されている。雄島周辺の海底からも大量の板碑が確認されている。
奥州御島頼賢碑【重文】		松島字町内(雄島)	頼賢の徳行を後世に伝えるため、弟子30余人が徳治2年(1307)に建てた顕彰碑。
文永紀年の供養塔		松島字町内	中世の板碑で文永10年(1273)の年号を持つ。砂岩。松島町で確認された板碑のうちで最古のもの。
弘安十年銘供養碑		塩竈市	浦戸朴島
建治三年銘古碑	七ヶ浜町	代ヶ崎浜字影田	中世の板碑で建治3年(1277)の年号をもつ。梵字の阿弥陀曼荼羅、銘と願文が彫られている。

(4) 伊達政宗による近世瑞巖寺の造営と展開

鎌倉時代に始まる円福寺は、江戸時代に仙台藩初代藩主伊達政宗により、臨済宗妙心寺派の松島青龍山瑞巖円福禅寺（瑞巖寺）として再興される。以後、仙台藩の庇護のもと、それまでは別個に存在した五大堂も管理下に置くなど隆盛を極めていく。

瑞巖寺周辺は、寺町の風情を持った趣のあるまちなみが形成された。現在は歴史的建築物のみでなく、周辺の林、寺町構想の一環として整備された石畳道路と沿道の生垣や黒杉板塀など、落ち着いた景観をなす。

第3-10表 伊達政宗による近世瑞巖寺の造営と展開の構成

瑞巖寺【国宝：本堂（元方丈）・庫裏及び廊下、重文：御成門附土塀・中門附土塀、県有形：総門】	松島町	松島字町内	臨済宗妙心寺派の寺院。本堂・庫裏及び廊下は慶長14年（1609）建築。他も同時代の建築と考えられる。本堂は桃山期大書院造りの方丈で、細部絵様及び欄間、扉の彫刻などに、桃山建築の特色がよく現れている。庫裏及び廊下は、内部に大小無数の貫梁を縦横に架し、両妻には大破風を飾り、平面も完成された禅宗庫裏の手法を有する豪快な遺構である。御成門は入母屋造で本瓦葺の薬医門。中門は切妻造でこけら葺の四脚門。総門は切妻造で本瓦葺の薬医門。
瑞巖寺五大堂【重文】		松島字町内	大同2年（807）、坂上田村麻呂の創立と伝わる。現在の建物は慶長9年（1604）に伊達政宗が再興したもので、方3間、向拝を付けて勾欄付縁をめぐらす。
陽徳院【重文：霊屋（宝華殿）、町有形：山門】		松島字町内	霊屋は伊達政宗夫人愛姫のものとして万治3年（1660）に建築された。方一間、宝形造、銅板葺で、黒漆塗の華麗な装飾が施された繊細優美な建築である。山門は江戸時代のもので、明治以前は瑞巖寺参道両脇にあった塔頭寺院の門であったと伝わる。
圓通院【重文：霊屋（三慧殿）、町有形：本堂大悲亭・山門】		松島字町内	霊屋は二代藩主伊達忠宗の世子光宗のものとして、正保4年（1647）に建築された。方三間、宝形造で、仙台藩の大工（棟梁：落合助左衛門、内藤五郎兵衛）の手になる江戸時代初期の代表作である。大悲亭は光宗が江戸藩邸にいたときの納涼の亭であったという。正保2年（1646）頃の建築とみられ、船で運ばれて移築されたと伝わる。山門は一間一戸の薬医門で、圓通院開山と同時に建てられたと考えられている。
松島の岩窟群（供養地）		松島字浪打浜ほか	中世から近世の岩窟群。雄島の185基をはじめ、小松崎、真山地蔵堂、天麟院裏、円通院裏、軒端屋、観瀾亭敷地内、埋木書院脇、参道東側、陽徳院裏、水主町、天童庵跡に所在している。
日吉山王神社【県有形：本殿】		松島字町内	もとは五大堂前に円福寺の鎮守として建てられた。現在の建物は三間社流造、銅板葺、前面三間向拝で、宝永（1704-1711）頃のものと考えられている。簡素ながら端正な建築である。
解脱院（地藏堂）【町有形】		松島字町内	政宗の五大堂造営のきっかけとなったと伝わる地藏堂で、医師真山玄川が建てた。昭和12年（1937）、現在地に移築された。
天麟院		松島字町内	政宗夫人愛姫との間に生まれた五郎八姫の菩提を弔った寺。陽徳院、円通院と並んで、松島の三霊廟の一つである。
三聖堂【町有形】		松島字町内	天和2年（1710）の建築。方二間、宝形造、茅葺。観音信仰者による建立とされ、観音を本尊とし、左に達磨、右に菅原道真を祀る。棟札に匠人として松島の勘兵衛、勘三郎の名が記される。



瑞巖寺五大堂



陽徳院霊屋



圓通院霊屋

(5) 仙台藩伊達家に関わる文化遺産群

伊達家の菩提寺として庇護を受けた瑞巖寺は、数多くの末寺を持ち、その信仰を周辺で展開させていく。特に扇谷の達磨堂、富山の大仰寺、多聞山の毘沙門堂などは、後に四大観と呼ばれる代表的な展望地点となる。

また、松島には藩主や幕府役人の巡見等の宿泊及び接待用の施設としての御仮屋御殿が複数設置され、遊覧の地としても広く知られるようになった。

第3-11表 仙台藩伊達家に関わる文化遺産群の構成

富山大仰寺本堂・富山観音堂・富山仁王門【町有形】、梵鐘【県有形】	松島町	手樽字三浦	奥州三観音の一つで、伊達政宗の息女五郎八姫が明暦3年(1657)に早山弥五郎実次につくらせたと伝わる。本堂は18世紀後半から19世紀初頭頃の建築とみられ、6間取りの方丈。仁王門は正面両脇間に納められた仁王像に享保8年(1723)の胎内銘があり、元禄から享保ころの建築とみられる。桁行三間、梁間三間、一重、向拝一間、棧瓦葺の宝形造。梵鐘は五郎八姫が寄贈したもの。
掃命院		高城字掃命院下一	浄土宗の寺院。慶長10年(1605)開創。寺伝によると伊達政宗の家臣山岡志摩が念仏庵を営んだことに始まる。
扇谷 達磨堂		松島字桜岡入	元禄8年(1695)、瑞巖寺101世鵬雲東博禅師により造営され、中央に聖徳太子、左に達磨像、右に鵬雲像を安置した。
水主町の民家【町有形】		松島字町内	もとは瑞巖寺東側に住んでいた水主衆の民家。文化年間(1804-1818)の建築。水主衆は船舶運用・船手入れのほか、湾内の取締りや藩主・賓客の松島遊覧の際の操船も行った。
観瀾亭【県有形】		松島字町内	正保から慶安年間(1645-1652)以降の建築で、伊達家の御仮屋御殿として藩主の松島遊覧や、幕府巡見使等の諸国巡回の際の宿泊・接待に利用され、藩主の納涼、観月の亭として「月見御殿」とも呼ばれた。建物は桁行八間半、梁間五間でこけら葺の寄棟造。内部は18畳2室で、四方縁をめぐらす。床の間の張付絵や襖絵は壮麗な極彩色で画かれている。
多聞山 毘沙門堂	七ヶ浜町	代ヶ崎浜字八ヶ森	現建物は江戸期の建造とみられる。33年に一度、毘沙門天が開帳される。
鴻ヶ崎(御殿崎)		松ヶ浜字浜屋敷	伊達家の遊覧地として仮館があったとされる。突端に荒崎稻荷神社がある。



富山観音堂



観瀾亭



多間山 毘沙門堂

(6) 廻船・航海・街道関係遺産群

江戸時代には、海路を中心に仙台城下と海運の拠点港がある石巻とを繋ぐ石巻街道が発達した。この街道には「松島海道」と呼ばれる塩釜港から石巻港の間をつなぐ航路があり、塩竈から松島に渡った松尾芭蕉も利用したと考えられている。さらに、浦戸諸島寒風沢島や磯崎、宮戸島には、北上川から仙台や江戸への廻米中継地として御米蔵が置かれ、船員・商人が泊まる旅館や休憩所が設けられた。また、外国船警備の唐船番所や、これらを管理する仙台藩役人の詰所も設置され、周辺は賑わいを見せたと伝わる。松島湾には廻漕業を興した白石廣造邸宅跡など航海関係のものが各地に残り、その歴史がうかがえる。

海路以外にも、奥州街道の枝線である浜街道に属する松島は、高城・手樽・涌谷・石巻街道の分岐点となっており、現在の町割りにも名残りがみられる。街道は鹽竈神社や金華山参りなどの多くの人々が往来したとされ、瑞巖寺門前町をはじめとした街道筋では焼きハゼなどの魚介類、印鑑に使用する福浦島の竹、せっこう、こうれんせんべいなどの土産物が売られ、賑わいを見せたと伝えられている。

第3-12表 廻船・航海・街道関係遺産群の構成

福浦島弁天社	松島町	福浦島	海上安全を願って勧請された。元は磯崎筒場の弁天島に所在していたが、昭和11年(1936)に移された。
庚申塔		高城字迎山	松島高校裏手の石巻街道法華越にある江戸時代の碑群。
大浜唐船番所跡	東松島市	宮戸字大浜	海岸防備のため設置された外国船見張番所で、仙台藩に5ヶ所ある番所の1つ。監視所は萱野崎の山上に置かれ、その西側中腹に足懸詰所があった。
多十郎の墓碑【市有形】・儀兵衛・多十郎記念碑の丘		宮戸字宮戸	墓碑は観音寺内にある。多十郎は、宮戸島出身の儀兵衛と共に難破漂流し、帰国するまでに日本人で初めて世界一周をした。記念碑の丘は、室浜地区東側の高台にある。日本人最初の周航者としての2人の名を刻んだ記念碑が建立されている。
桂島の雨降石	塩竈市	浦戸桂島石浜山神	桂島東端の眺望の地。航海の日和見をした場所で、巨石が3個ある。最大で笠型のものを雨降石と称し、この石を叩くと雨が降るとされている。
白石廣造邸宅跡		浦戸石浜	白石廣造の邸宅跡。廣造は明治4年(1871)に北海道や三陸各港を結んで廻漕業を興したのをはじめとし、数々の事業に着手した。開成丸・権現丸・洪栄丸の三帆船で遠洋漁業(ラッコ・オットセイ漁)を興した企業家である。
寒風沢の日和山		浦戸寒風沢	藩政時代に船頭が日和見をした外洋を望む丘陵。
しばり地藏		浦戸寒風沢日河山	日河山山頂にある。日河山は航海者が天候を見た山で、地藏には女性が航海者の出港をとりやめる祈願として荒縄を巻く風習があった。
十二支方角石		浦戸寒風沢	日河山山頂上に幕府の木村又衛正信が設置した石造方位標。天保12年(1841)の設置。

延命地藏菩薩	塩竈市	浦戸寒風沢湊	もとは観音堂参道にあった地藏像を明治37年(1904)に聖観音像とともに遷座したもの。地藏像は享保年間(1716-1735)に江戸で作られ、千石船でこの地へ搬送されたが、順風に恵まれて一日一夜で到着したといわれ、一夜地藏の別名がある。
寒風沢百万遍供養碑		浦戸寒風沢	百万遍の念仏供養を記念した碑。江戸時代、寒澤寺に代々名徳の僧が住み、海上安全などの祈願をしたことを証すもの。百万遍の念仏は、現在も島民によって行われている。
幕府城米蔵跡及び仙台藩米蔵跡		浦戸寒風沢	幕府の廻船方・仙台藩の津方と脱穀改め方の役所・米蔵跡。県北部の大崎五郡の本石米、南部藩の江戸廻米は北上川を下って石巻に運ばれた後、小廻船によって寒風沢に集荷され、江戸に送られた。
鱧ヶ淵洞窟		浦戸寒風沢赤藻崎	鱧神を祀った洞窟。鱧ヶ淵水道に仮泊する船は洞窟の松樹の枝に鱧神を吊して祀り、赤飯を棧俵に供えて願った。
野々島の旧道		浦戸野々島	山中を通る旧道。基盤をえぐり込むようにして道を造る。
小豆浜	七ヶ浜町	花淵浜	小豆を積んだ船の漂着に由来した名称をもつ浜。県内有数のサーフスポット。
荒崎稲荷社・荒崎稲荷神社の媽祖画像		松ヶ浜字浜屋敷	荒崎稲荷社は江戸時代の肝入であった星家の氏神。承和4年(837)以前から奉斎されており、茨城県の大洗磯前神社から分霊した天妃神(媽祖)の画像が祀られている。媽祖は航海安全の守護神とされる女神。画像は一枚板に墨で天妃像と2人の女官が描かれている。
比翼塚	松島町	松島字町内	蜂谷掃部の子小太郎と紅蓮尼の板碑と塚。紅蓮尼は、松島名物こうれいせんべいを焼いていたと『松島諸勝記』にみえる。

(7) 幕末明治の海防遺跡群

航海の要衝であった松島湾には、幕末の異国船出現に対する海岸警備の強化によって、浦戸諸島や宮戸島を中心に多数の砲台場が設置された。また、西洋式新技術を採用した軍艦開成丸が、寒風沢島で建造されている。これらの地には砲台場跡や石碑がのこり、歴史を今に伝えている。

第3-13表 幕末明治の海防遺跡群の構成

二本松砲台場跡	東松島市	宮戸字室浜	宮戸島北端、野蒜方面に対する丘の上に位置する。仙台藩が安政4年(1858)に築造した。
鱧山砲台場跡		野蒜字洲崎	野蒜の不老山西方の洲崎浜に孤立する凝灰岩の丘(鱧山)にある。仙台藩が安政4年(1858)に築造した。
丸山砲台場跡		大塚字長浜	東名の南端に位置する標高51mの丸山にある。仙台藩が安政4年(1858)に築造した。
石浜崎砲台場跡	塩竈市	浦戸桂島石浜	石浜東南端の岬にあったが、現在は海蝕により島状に分離している。仙台藩が安政4年(1858)に築造した。
仙台藩軍艦開成丸造船場跡・寒風沢造船の碑		浦戸寒風沢	奥羽諸藩最初の軍艦(スクーター型帆走船)を造った造船場跡で、船材・銅鉄・錨・綱具・帆布などには仙台藩の国産品を用いた。安政4年(1858)8月に仙台藩の軍艦開成丸の造船を記念して、粘板岩で寒風沢造船の碑が建立された。
寒風沢砲台場跡		浦戸寒風沢	日和山に続く杉和田崎にあり、大砲3門を備え、砲座と弾薬庫跡、土居が残存している。仙台藩が安政4年(1858)に築造した。
船入島砲台場跡		浦戸船入島	大砲2門を備える。仙台藩が慶応3年(1867)に築造した。
幕府艦隊投錨地跡		石浜	戊辰戦争時に榎本武揚率いる幕府艦隊が投錨した地。石浜の船大工による修理と補給を受けている。

(8) 松島湾沿岸北部の近世以降の製塩遺跡群

江戸時代、仙台藩は領内での塩の自給自足を目指し、赤穂（兵庫県）、行徳（千葉県）より入浜式製塩の技術を導入した。松島湾でも野蒜塩田などの開発が行われ、東北地方随一の製塩地帯となっていく。現在でも、東名に残る水路網などに当時の塩田の痕跡を見ることができる。

第3-14表 松島湾沿岸北部の近世以降の製塩遺跡群の構成

高城塩田と磯崎御蔵跡	松島町	高城	高城川河口から磯崎南西部にかけて広がっていた推定30町歩(30ヘクタール)の塩田。磯崎御蔵は生産された塩を収めた藩の御蔵で、御塩方が置かれた。
亀岡塩田増墾碑	東松島市	野蒜	齋藤廉吾ほか4名の功業をたたえた碑。齋藤らは東名運河の開削に伴い農地を失った村民の救済のために、私財を投げ打って十町歩余の塩田を造墾した。
丸山と鹽竈神社跡		東名	かつては製塩に係わる東名集落の神社として丸山にあったが、震災による集落の消失で、東名集落跡へ移転した。
東名塩田跡の田地		東名	東松島市東名の塩田跡。関連として、東齋塩場碑(東名・如月庵境内)がある。
東齋塩場の碑【市有形】		大塚字東名如月庵境内	東名塩田の開発者である奈和良元直の功業をたたえた碑。

(9) 近代交通遺産群

明治維新以降、主要航路や港湾が整備され、岬には灯台が建設される。野蒜築港は、日本最初の洋式港湾として明治政府による東北地方開発の一環で行われた。港湾建設は中止となるが、野蒜に係わる施設として港口の突堤や東名運河が残る。

陸上交通では鉄道敷設が進められ、政府の支援を受けた日本鉄道会社が、東北本線上野-青森駅間を全通させる。この路線の開通により、塩釜-石巻駅間を結ぶ航路「松島海道」に東京や仙台からの鉄道が接続することになった。開業当時の東北本線は、仙台-塩竈駅間は利府町赤沼から松島町初原へ至る内陸ルートで山線と呼ばれ、その中の一駅である松島駅も明治23年(1890)に営業を始めた。

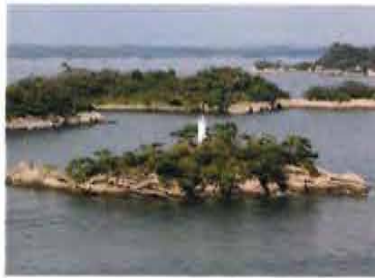
昭和2年(1927)には、宮城電気鉄道会社の仙石線が仙台-松島公園駅(現在の松島海岸駅)間で開通する。同社は松島公園駅の開業に合わせて松島遊園を開園させた。同時期には松島水族館も開業し、鉄道開通を契機として松島観光が身近なものとなった。

第3-15表 近代交通遺産群の構成

野蒜築港関連遺跡(港口突堤、東名運河)	東松島市	野蒜	明治政府による日本最初の近代的洋式港湾建設事業で、明治15年(1882)に鳴瀬川河口に突堤が完成したが、明治17年9月の台風により壊れた。第二期工事は未着手のまま廃港となる。
地藏島灯台	七ヶ浜町	地藏島	宮城県が大正9年(1920)に設置した。塩釜港に入港する船のためのものである。当初は石造であったが、東日本大震災により建て替えられた。
花淵灯台		花淵浜字保ヶ崎	昭和39年(1964)10月27日から点灯された無人灯台。白色円形のコンクリート造で、高さは20m、海面からは62.5m。
仙石線遺構(松島隧道・高城川橋梁・磯崎架動橋)	松島町	—	松島隧道は松島海岸~高城町間で昭和3年(1928)竣工。コンクリート造。橋梁と架道橋は鋼桁でコンクリート造の橋台。



東名運河



地藏島灯台



花洲灯台

(10) 近代以降の観光産業

明治から大正時代にかけて、国民の娯楽を目的として県営松島公園の整備事業が進められた。これにより四大観の整備や船着場の建設などが行われ、ホテルや土産物屋も発達して観光地としての松島がつくられていく。

また、砂浜や干潟では、海水浴場や潮干狩り場が開設されはじめる。菖蒲田海水浴場は東北地方で最初に開設されたものとして知られ、今も夏の特徴的な景観となっている。外国人による観光開発も行われ、七ヶ浜町高山は戦前にアメリカ人宣教師が外国人専用避暑地として開発したものが今に至っている。

第3-16表 近代以降の観光産業の構成

観月楼【町有形】・瑞巖寺門前の土産物屋街	松島町	松島字町内	瑞巖寺総門の東側にある三階館の建物で、もとは旅籠であった。明治元年(1868)竣工の本館と、大正期に増築された新館からなる。竣工当時から残る伝統的な意匠と、戦後に進駐軍宿舎とされた後の修繕による近代的な意匠が混在する。また、周辺は土産物屋街となり、明治時代末の松島海岸の様子を伝えている。
松島湾の遊覧船・船着場		松島	塩釜港と松島海岸を結ぶ遊覧船や、湾内の周遊船がある。
旧松島公園管理事務所		松島字町内	県営松島公園の管理事務所として建てられた。
松島パークホテル跡		松島字町内	東北地方初の外国人向けリゾートホテル。大正2年(1913)に開業し、昭和44年(1969)に失火により焼失。現在は公園緑地となっている。
旧小料理正宗		松島字小梨屋	総石造2階建。昭和29年(1954)建築。
福浦橋		松島	本土から福浦島をつなぐ全長252mの朱塗りの橋。県内初の有料橋として昭和42年(1967)に完成した。
ブランデンの碑		松島字愛宕裏	イギリスの詩人エドモンド・ブランデン氏が昭和28年(1953)、家族とともに松島を訪れた折の感懐をうたった詩を、詩人白鳥省吾が翻訳し、町が新富山の山頂に建てた碑。
野蒜海水浴場	東松島市	野蒜	宮城電鉄初代社長山本豊次による観光開発として、須磨海岸にならい、昭和6年(1931)に宮城電鉄野蒜駅を東北須磨駅と改称するなどの整備を行った。
大高森薬師堂【国登録有形】		宮戸字大高森	大高森の中腹に位置する。大正4年(1915)に建設で、室内には白木作りの薬師如来像が安置されている。
月浜海水浴場		宮戸字月浜	奥松島にある海水浴場。東日本大震災で被災を受けたが、平成28年(2016)に再開した。
高山外国人避暑地別荘群と高山海岸	七ヶ浜町	花洲浜字戸谷場、表浜二、浜沼	七ヶ浜半島南東端の高台にある外国人専用避暑地。第二高等学校英語教師ハーレルが避暑地として土地を借り、明治22年(1889)に東北学院長シュネーダーが別荘を建設したのに始まる。

菖蒲田海水浴場 ・表浜	七ヶ浜町	菖蒲田浜字長砂 花淵浜字表浜	菖蒲田海水浴場は明治21年(1888)に開場した東北地方で初の海水浴場。当時は近くの眺望崎に保養施設「大東館」があり、多くの著名人が滞在した。表浜は高山外国人避暑地に隣接し、夏には避暑にきた外国人でにぎわう。
桂島海水浴場	塩竈市	浦戸桂島庵寺	桂島随一の風光明媚を誇る。東日本大震災による津波被害を受けたが、平成27年(2015)から再開された。



観月楼



大高森業師堂



菖蒲田海水浴場

(11) 野蒜・宮戸の採掘場群と凝灰岩建物

松島で産出される凝灰岩は加工が容易で、野蒜石や塩竈石といった産地名が付けられて壁や塀、竈の石材として出荷された。松島には採石場跡が各地に残り、松島では凝灰岩を使った家や倉庫が現在も多数使われている。採石により地形の改変は進んだが、その一方で浦戸諸島寒風沢島の塩竈石を使用した建物は特有の景観も生み出した。

採石場の近辺では、採石時に生じる規格外の石材などを使って入江を干拓した田地を見ることもあり、地域資源を利用した遺産になっている。

第3-17表 野蒜・宮戸の採掘場群と凝灰岩建物の構成

潜ヶ浦石採掘所	東松島市	宮戸字潜ヶ浦	潜ヶ浦石の採掘所2か所が確認される。石切りした崖には、当時彫られた女性像もみられる。
野蒜石・松島石採掘所		野蒜字東名	旧野蒜駅の北を中心に8地点、旧東名駅東側に2地点採掘所が確認されている。
野蒜石・潜ヶ浦石の住宅、倉庫、塀		宮戸	地元産出の野蒜石、潜ヶ浦石等を建材にした住宅、倉庫、塀からなる。
採石場跡を利用した住宅		宮戸字里浜	小規模な採石場跡を、住宅用地として利用している。
凝灰岩(塩竈石)製建物の景観	塩竈市	浦戸	凝灰岩切石ブロックの倉庫や一部改造して住宅化した建物からなる景観。浦戸諸島寒風沢島で比較的まとまってみられる。塩竈石は現在の塩竈市藤倉周辺で採石されていた。

(12) 戦争の痕跡

松島周辺には第二次世界大戦に関わるものとして、松島海軍航空隊(東松島市矢本)や、多賀城海軍工廠松島地区(松島町高城)などの戦争遺跡がある。大戦終期には、アメリカ軍の上陸地を東松島市矢本大曲海岸付近と想定し、海軍が基地建設を始めた。また、湾内にある多数のボラは防空壕としても活用された。これらは現在も歴史を伝えている。

第3-18表 戦争の痕跡の構成

多賀城海軍工廠地下作業室跡の岩窟	松島町	高城字居網沢	多賀城海軍工廠の地下作業室として掘られた大がかりな洞窟がいたるところにある。
野蒜の防空監視哨	東松島市	野蒜	鳴瀬川河口付近に設置されていた。

大高森の松島海軍空 港隊無線基地跡	東松島市	宮戸	終戦間際に設営された無線基地。山の中腹に兵舎が建てられたと伝わる。
第146震洋隊基地		宮戸字大鮫	鮫ヶ浦は、国内最後となる震洋146番部隊の基地が造られた。東北地方太平洋側では、最大の基地になる予定であった。
防空壕として使用されたボラ	東松島市 松島町 塩竈市	各地	海食崖に掘られたボラの一部は、防空壕としても使われた。

(13) 手樽の干拓景観

手樽浦には昭和30年代(1955～1964)の国営干拓事業による埋め立てで広大な田園が形成された。それにより自然の海岸線は失われたが、今は干拓事業で生まれた田園とかつての海岸線の名残りのある地形とが融合し、町の産業を支えてきた特徴的な景観が生み出されている。

第3-19表 手樽の干拓景観の構成

古浦農村公園	松島町	手樽字七十里	松島湾に面した農村公園。
手樽海浜公園		手樽字銭神	松島湾に面した485メートルの海岸線に展開する広大な公園。
手樽干拓農地		手樽	昭和33年(1958)から10年間の国営干拓事業によって手樽浦の120余ヘクタールが耕地化をされた。現在も田畑が広がる。
佐助堤防		手樽	安部佐助を中心として、塩田を拓くために作られた長さ210mの堤防。
早川堤防		手樽	仙台藩士早川義泰と名主の卯右衛門により、田を拓くために早川の海に作られた長さ210mの堤防。
手樽干拓記念碑		手樽字鶴の島	手樽湾内全域が干拓された記念に昭和55年(1980)に造立された碑。
大塚の新田	東松島市	大塚字大東	湾を埋め立てた田地、石積の段が作られている。石積みは周辺碎石場のズリ石等が使用されている。

(14) 災害を伝えるもの

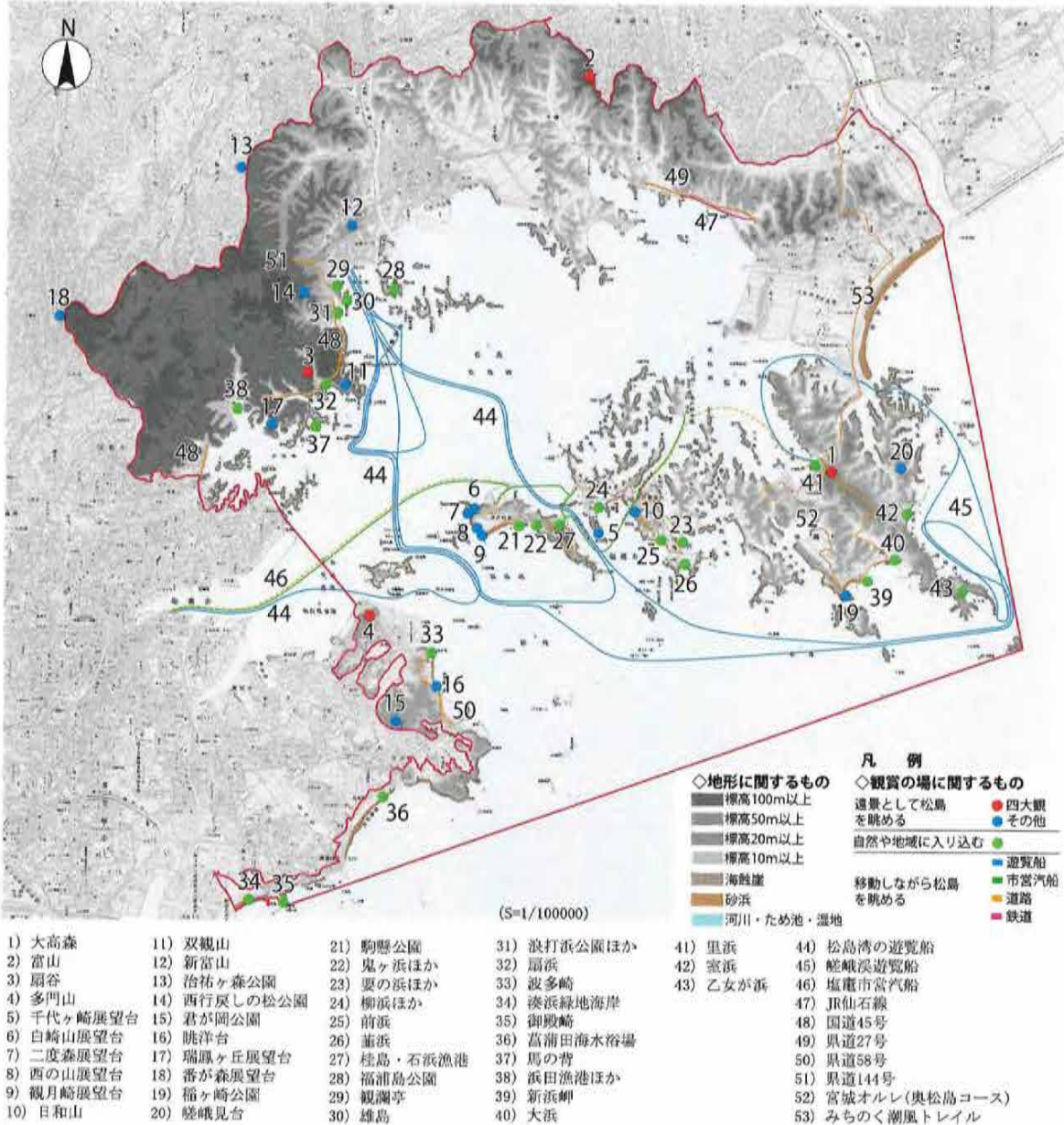
平成23年(2011)3月11日に起きた東日本大震災は、太平洋沿岸部の一帯に壊滅的な被害をもたらした。松島には津波の被害を示す遺構が残り、今もその記憶を継承している。また、東日本大震災以前の災害を示す資料として、津波地蔵や津波石が各地域に残っている。

第3-20表 災害を伝えるものの構成

室浜の津波地蔵	東松島市	宮戸字室浜	潜ヶ浦と室浜からの津波により、多くの人々が亡くなったと伝わる地にある地蔵。
里浜の六地蔵		宮戸	現在は中小舟渡にあるが、かつては二ツ橋の近くにあった。津波の犠牲者を供養したものと伝わる。
里浜の津波石		宮戸	二ツ橋にある。風化で文字は読めず、時代も不明。かつて大浜、里浜から来た津波がこの場所に押し寄せたと伝わる。東日本大震災の際に外洋と内湾から押し寄せた津波も、この石碑の手前で止まった。
旧野蒜駅舎		野蒜字北余景	東日本大震災の津波によって被災した建物。現在は震災復興伝承館となっている。
旧野蒜小学校		野蒜字亀岡	東日本大震災の津波によって被災した建物。現在は総合防災宿泊施設(KIBOCHA)となっている。
みんなの家	東松島市 七ヶ浜町	各地	東日本大震災の被災地で、住民たちの憩いの場等の拠点回復を目的とし、建築家やボランティア団体によって提案・建設された建物群。大浜、月浜、七ヶ浜、新浜みんなの家がある。

第5節 観賞の場

風景を眺め感動体験できる観賞は、“松島の風景”イメージを共有し、価値観の形成に大きな影響を与えている。松島の観賞では、遠景としての眺めが優れているが、自然や地域社会に入り込む観賞や、遊覧船や鉄道で移動しながらの眺めも松島の奥深さを味わえる。これらを眺める観賞の場は、四大観など歴史的に評価を得てきた場所や、近年SNSにより認知された場所まで様々であり、これからも新たな発見が見込まれる。ここでは、現在までに評価された観賞の場を、松島の見方ごとに紹介する。



第3-3図 観賞の場の位置

1 遠景として松島を眺める観賞の場

松島を遠景として眺める観賞は、最も松島らしい眺めを味わうことができ、古くから“松島の風景”イメージの形成に寄与してきた。遠景としての眺めはある程度の高所を必要とするため、松島を取り巻く丘陵が観賞の場として優れている。このうち、江戸時代後期に仙台藩儒学者・舟山萬年によって「塩松環海四山」とされた湾内四方の地点が「四大観」と総称され、歴史的に最も高く評価されている。また、近代以降に整備された場所でも、特徴的な景観を観賞できる。

(1) 松島四大観

松島四大観とは、壮観（大高森）、麗観（^{とみやま}富山）、幽観（扇谷）、偉観（多聞山）の総称で、これらの観賞の場は眺望がよいだけでなく、寺院や堂宇があり、信仰の場ともなっている。

第3-21表 松島四大観

1	大高森（壮観）	東松島市	<p>宮戸島中央部の独立峰・標高 105.6 m に位置する観賞の場。山頂部から 360 度の展望が広がり、外洋部の野蒜海岸から湾内多島海まで一望できる。『塩松勝譜』によると、古来阿弥陀如来を祀り、薬師如来を祀る瑠璃山、観音菩薩を祀る観音嶺とともに宮戸三嶺の一つとして信仰されていたとされる。</p> <p>景観工学的に人間が見やすい俯角は 10 度と言われているが（註 1）、これを大高森の眺めに当てはめると、左から突き出した岬が印象的だが、これは立って前を見たとき視線が落ちる角度と言われる俯角 10 度が岬手前の海水面だからであろう。眼下に見える海水面が俯角 1 7 度、対岸の松島町の海岸はほぼ 0 度だから、俯角 0 ～ 17 度という広範囲の海水面が見えている。ツク島などの島々は 12 ～ 4 度のなかに含まれ、岬も島々も樹木の綾が判別できる中景域ある。俯角 10 度内外に、距離もそれほど離れていない中景域の多島海が広がることから、鑑賞者の心に迫る景観となっている。壮観と呼ばれるにふさわしい。</p>
2	^{とみやま} 富山（麗観）	松島町	<p>町の北部丘陵の峰・標高 116.8 m に位置する観賞の場。山頂部に大仰寺がある。眺めは江戸時代から『奥州名所図絵』などに「松島の景悉く富山に在り」と記され、『塩松勝譜』では「(景) 勝に富む」ことから富山の名がついたとされるなど、松島を代表する観賞の場として知られてきた。</p> <p>富山から海までは 1.5 km 以上離れており、他の四大観と大きく異なる。この富山の特徴は水平の広がりであり、40 度近い角度で多島海が広がるが、これは人間が対象をはっきり捉えることができる視野の限界に近い。</p> <p>多島海の景観は上下の視野の狭く小さな範囲に限られ、対象までの距離が遠く迫力には欠けるが、水平に大きく広がる景観は優美であり、麗観というに相応しい。</p>
3	扇谷（幽観）	松島町	<p>町の西端、双観山の裏・標高 55.8 m に位置する観賞の場。谷を通した展望は『塩松勝譜』において「扇面の書」のよう と 評される。山麓には瑞巖寺を中興した雲居が営んだ庵に由来し、瑞巖寺の僧鵬雲が創建した海無量寺があった。海水面は広く捉えられるが、多島海の景観として見たとき、間近にあるのは要島 1 つで、他の島々は俯角 1 度に満たない遠方に並ぶ。眼前に迫る景観とは異なり、幽観という呼称が肯かれる。</p>
4	多聞山（偉観）	七ヶ浜町	<p>代ヶ崎浜の海食崖直上・標高 55.6 m に位置する観賞の場。直下の島々を見下ろすことができる。毘沙門天（多聞天）が祀られている。</p> <p>自然に視線が落ちる俯角 10 度が地藏島の手前にあり、海水面は広く、島々も数は多くないが間近にあって、迫力ある景観である。遠くに広がるのは富山や野蒜の丘陵で、俯角 0.4 度、ほとんど山紫の状態にある。偉観という呼称に納得がいく。</p>

註 1 俯角とは、視点と対象との上下関係を表す言葉で、対象を見下ろす場合の視線の水平に対する角度のこと。俯角 10 度は Henry Dreyfuss: The Measure of men; Human Factors in Design, Whitney Publications, New York 1959、樋口忠彦 1975 「景観の構造」による。



第3-4図 松島四大観

(2) 松島四大観以外

松島では四大観以外にも丘陵や岬を中心に観賞の場がつけられてきた。ここでは遠景として松島を観賞できる16ヶ所を紹介する。

第3-22表 松島四大観以外の観賞の場

5	千代崎展望台	塩竈市	浦戸野々島	野々島の南西端。石浜を一望できる。
6	白崎山展望台		浦戸桂島	桂島北西端。松島から塩釜まで望むことができる。
7	二度森展望台		浦戸桂島神手洗	桂島北西部。塩釜湾を望むことができる。
8	西の山展望台		浦戸桂島	桂島南西部。大藻根島をはじめ、島々を近くに見ることができる。
9	観月崎展望台		浦戸桂島菖蒲	桂島南西端。仁王島を間近に見る。
10	日和山		浦戸寒風沢	寒風沢水道に面している。江戸時代にはここから天候などを見ていた。
11	双観山	松島町	松島字大沢平	松島海岸南端に位置する岬。松島湾と塩釜湾の双方が眺望できる。
12	新富山		松島字愛宕裏	松島海岸の市街地の背後丘陵に位置する。市街地越しに湾内を一望できる。
13	治祐ヶ森公園		桜渡戸字芦ヶ沢(指定地外)	標高122mの白坂山に位置する。個人から町に寄付された土地を、永久自然林として町が整備管理している。

14	西行戻しの松公園	松島町	松島字犬田	西行ゆかりの伝説地であるとともに、松島湾を一望できる展望地として整備され、桜の名所としても有名。
15	君ヶ岡公園	七ヶ浜町	吉田浜字西君ヶ岡	標高 59m の高台に位置する。七ヶ浜町内の集落越しに浦戸諸島が一望できる。明治 33 年 (1900) に皇太子 (大正天皇) 御成婚祝賀会が開催され、記念の桜が植樹された。
16	眺洋台		吉田浜字寺山	昭和 62 年 (1987) に地元クラブの奉仕作業で整備された。外洋を望むことができる。
17	瑞鳳ヶ丘展望台	利府町	赤沼字櫃ヶ沢	浜田藩の北岸に位置し、主に松島湾の西西部の島々を望む。周辺はマツのほか、モミの巨木も自生する。
18	番ヶ森展望台		赤沼字番ヶ森 (指定地外)	標高 216m の番ヶ森山頂に位置する。東に金華山、北に栗駒山、西に松島湾が望める。
19	稲ヶ崎公園	東松島市	宮戸字月浜	月浜の西端の岬。標高 37.8m。松島湾を一望し、遠くに蔵王連峰を望むことができる。新宮戸八景のひとつ。
20	嵯峨見台		宮戸字室浜	観音山遊歩道の途中。近くに黒島、花魁島を、遠くに石巻、牡鹿半島を望むことができる。新宮戸八景のひとつ。

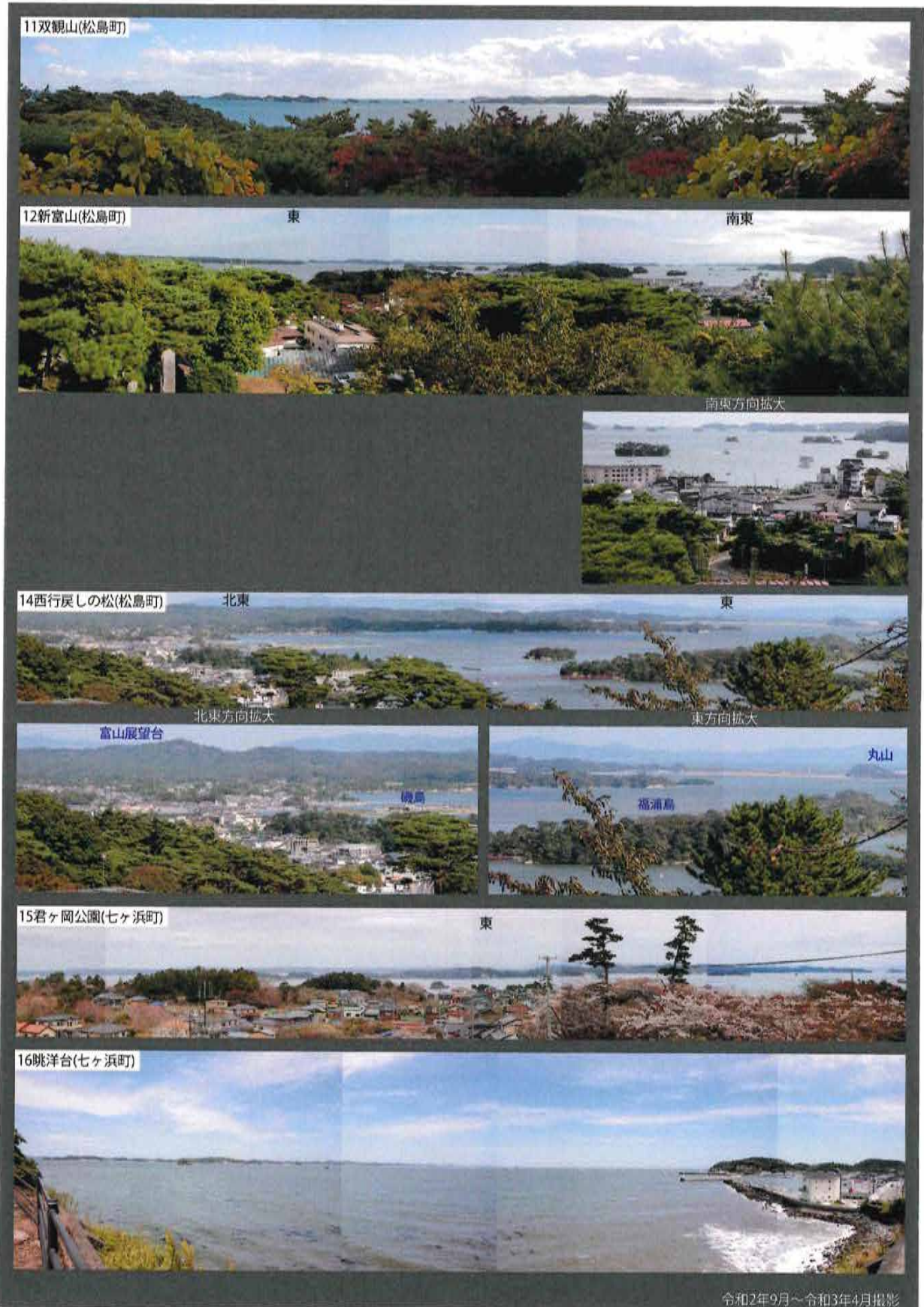
2 松島の自然や地域社会に入り込む観賞の場

浜や入り江など、松島の自然や地域社会の中に入り込む観賞は、松島の特徴や奥深さを理解できる。こうした体験ができる観賞の場を 23 箇所紹介する。

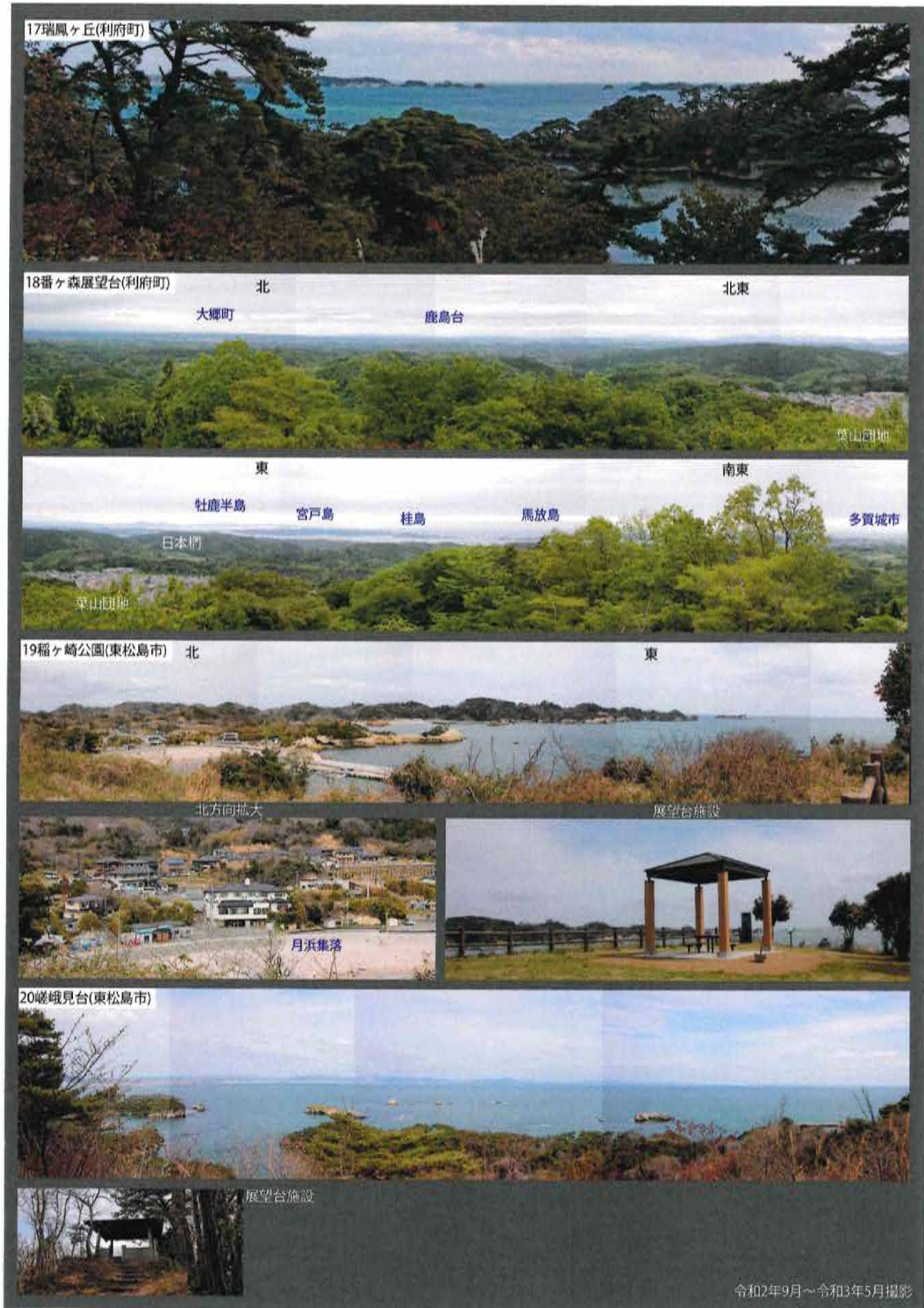
第3-23表 松島の自然や地域社会に入り込む観賞の場

21	駒懸公園	塩竈市	浦戸桂島鬼ヶ浜	桂島の南側、桂島海水浴場と鬼が浜の間の岬にある。太平洋を望む。
22	鬼ヶ浜・小沙羅浜		浦戸桂島鬼ヶ浜 浦戸石浜本石浜	桂島の太平洋を望む浜である。特に鬼ヶ浜の近くには首浜、頭浜があり、それぞれ鬼退治の民話に因んだ地名が残る。宮城県で 2 番目の海水浴場であった。
23	要の浜・元屋敷浜		浦戸寒風沢	要の浜は民話伝承古下駄のお化けの地として伝わる浜である。隣の元屋敷浜はかつて集落があったと伝わる青島等を望む。
24	柳浜・宇内浜		浦戸野々島毛無崎・吹越、馬越	ともに野々島にある。宇内浜は干潮時に島と地続きになる。
25	前浜		浦戸寒風沢	寒風沢島の最も広い浜で、船入島、鷹島、沖鷹島、岩井島等を望む。
26	葦浜		浦戸寒風沢	荒崎の隣にある浜。遠くにカラカイ島を望む。
27	桂島漁港		浦戸桂島庵寺、浦戸石浜	松島湾を望む漁港であり、市営汽船の船着き場でもある。秋はハゼ釣りで賑わう。
28	福浦島公園	松島町	福浦島	東西 300m、南北 200m の島。福浦橋 (長さ 250m) で本土と結ばれる。島内を一周する遊歩道からは、松島湾を様々な方向から眺望できる。
29	観瀾亭		松島字町内	伏見城遺構と伝わり仙台藩主の御飯屋として建てられた。松島湾や松島海岸の瑞巖寺門前町を見られる。
30	雄島		松島字浪打浜	中世に多くの板碑が建てられた。雄島から見える景色が浄土の入口と見立てられた。
31	松島グリーン広場・松島海浜公園・浪打浜公園		松島字霞ヶ浦	福浦島、雄島をはじめとした島々を望む。県事業により公園として整備されている。松島湾めぐり観光船の乗り場でもある。
32	扇浜		松島字大沢平	扇谷の麓にある。松島湾要島、兜島、鎧島、在域島等を望む。
33	波多崎	七ヶ浜町	吉田浜字沢尻	前塚浜の北端。外洋を望むことができる。
34	湊浜緑地海岸		湊浜字砂場	仙台港の新設まで、湊浜を起点とする長浜海岸は、仙台市荒浜までつながる砂浜であった。港の新設によって寸断されたが、隣接する御殿崎に代表され美しいマツ林と砂浜の景観が残る。
35	御殿崎		松ヶ浜字浜屋敷	かつて仙台藩主の仮小屋がおかれ、仙台湾と外洋が鑑賞された。
36	菖蒲田海水浴場		菖蒲田浜字長砂	外洋と外国人別荘地のある丘陵を望む。

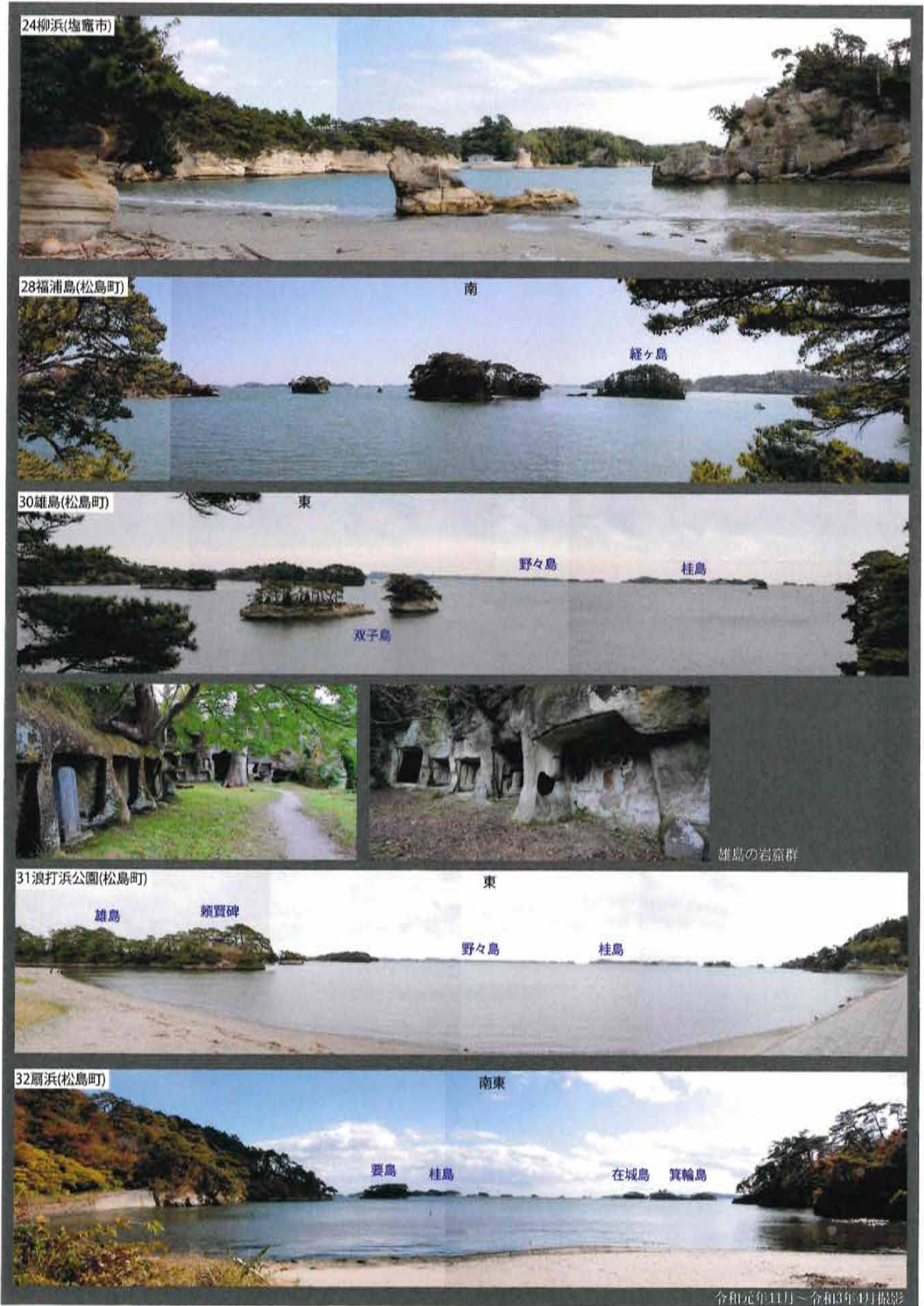
37	馬の背	利府町	赤沼字櫃ヶ沢	浸食によって天然の栈橋となった地形を中心に松島湾が一望できる。対岸には一回り小さい「子馬」がある。
38	須賀漁港・ 浜田漁港		赤沼字須賀、浜田	表松島と呼ばれ、天然の栈橋「馬の背」や、鏡島・兜島など表松島の島々のほか、湾内の伝統漁の景観も見ることができる。
39	新浜岬	東松島市	宮戸字月浜	月浜から大浜への遊歩道沿いに位置する。外洋を望むことができる。
40	大浜		宮戸字大浜	宮戸島南東の浜。松島湾の島々と漁村景観を見ることができる。
41	里浜		宮戸字牛山崎	宮戸島里浦を望む浜。松島湾の島々と漁村景観を見ることができる。
42	室浜		宮戸字鹿島	宮戸島東側の浜。松島湾の島々と漁村景観を見ることができる。
43	乙女ヶ浜		宮戸字推山	嵯峨溪遊歩道の終点。萱野崎を望むことができる。



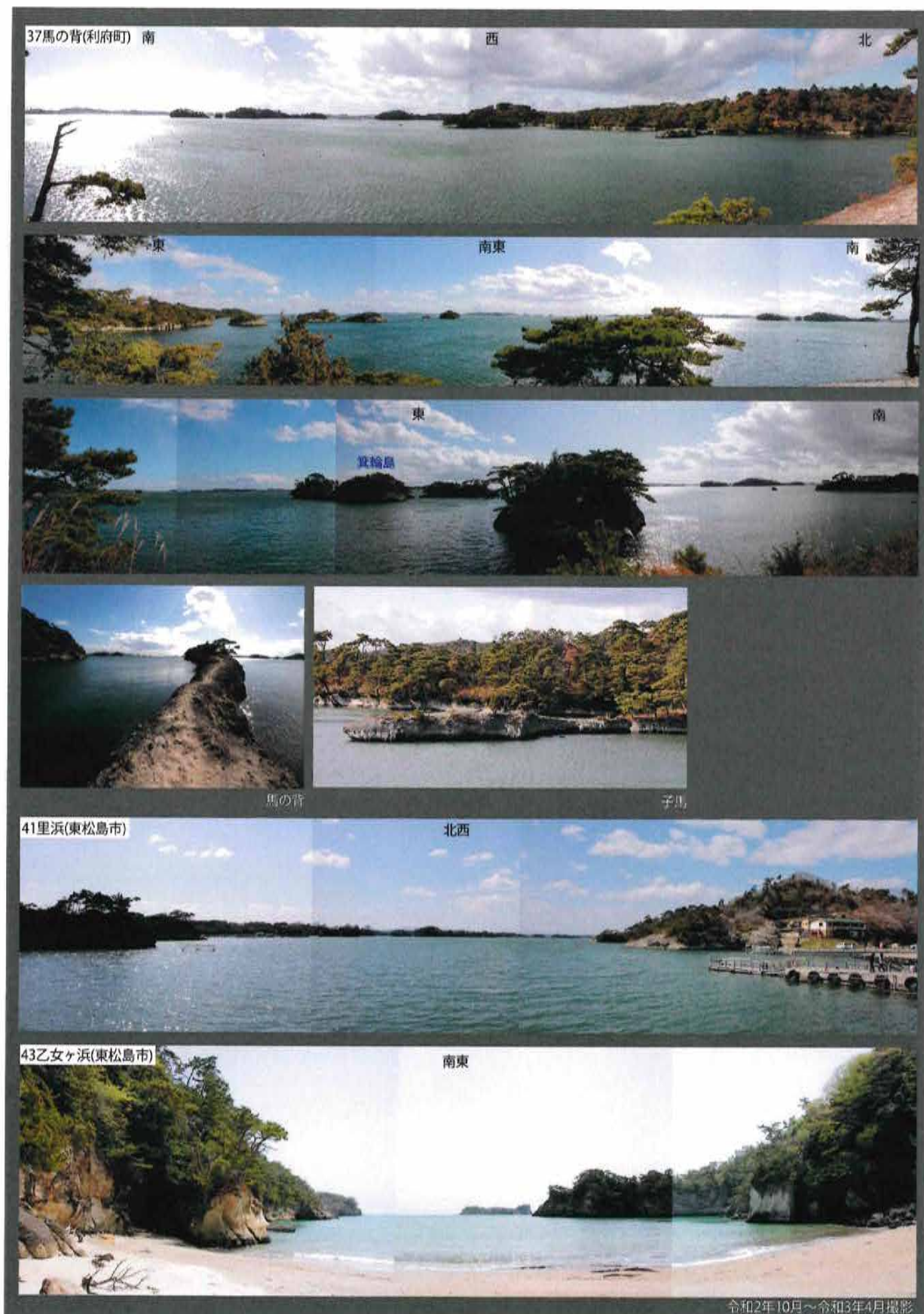
第3-5図 遠景として松島を眺める鑑賞の場(1)



第3-6図 遠景として松島を眺める鑑賞の場(2)



第3-7図 松島の自然や地域社会に入り込む鑑賞の場（1）



第3-8図 松島の自然や地域社会に入り込む鑑賞の場(2)

3 移動視点

近世から、松島を訪れる主要な手段であった塩竈からの海路や遊覧船の航路、近代以降に整備された鉄道や道路は、移動によって連続的な眺望の変化が得られる景勝路線として、旅に趣を与える貴重な要素である。特に航海路は近世から松島を訪れる文人墨客も作品に記すなど、“松島の風景”イメージ形成に大きな影響を与えている。また、昔ながらの尾根道などでも、良い眺めを得ることができる。

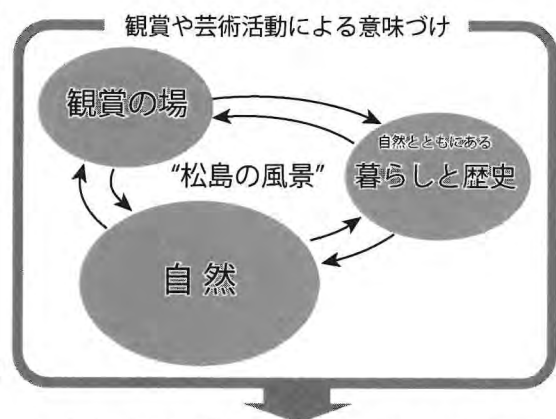
第3-24表 移動視点

44	松島湾の遊覧船	松島町・塩竈市	塩釜港から松島海岸を結ぶ遊覧船と、松島海岸から発着する遊覧船。鉄道開通以前に松島を訪れる際は、塩釜から海路を用いることが一般であった。
45	嵯峨溪遊覧船	東松島市	東松島市の奥松島遊覧船乗り場(あおみな)より発着している遊覧船。宮戸島嵯峨溪観光に活用されている。
46	塩竈市営汽船・渡船	塩竈市	塩釜港と浦戸諸島を結ぶ公営定期航路。浦戸諸島間では公営の渡船が運航している。
47	JR 仙石線	松島町 東松島市	仙台から石巻を結ぶ路線。陸前富山駅から東名駅の区間で松島湾を一望できる。
48	国道 45 号	利府町 松島町	仙台市から青森市まで海岸を結ぶ道路。特別名勝松島では、利府町浜田から松島町松島海岸周辺までの区間で海岸線に近く、瑞巖寺の門前や五大堂横も通る。
49	県道 27 号 奥松島・松島公園線	松島町 東松島市	奥松島パークラインと呼ばれ、宮戸島室浜入口から松島町高城の松島町役場前を結ぶ。東松島市大塚や野蒜海岸、宮戸島で特に海岸に近い。
50	県道 58 号 塩釜七ヶ浜多賀城線	七ヶ浜町	七ヶ浜の各浜を回る道路。特に吉田浜、小豆浜付近で海岸に近く景色が良い。
51	県道 144 号(長老坂)	松島町 利府町	利府町赤沼から JR 仙石線・松島海岸駅前を結ぶ県道。797 年、征夷大將軍・坂上田村麻呂が眺望を絶賛したため「眺浪坂」と呼ばれるようになり、西行が当地を訪れた頃までには「長老坂」と呼ばれるようになっていた。
52	宮城オルレ(奥松島コース)	東松島市	韓国濟州島発祥の徒歩コース。宮戸島を一周する 10km コースで、島の自然や里浜貝塚など歴史を感じることができる。
53	みちのく潮風トレイル	塩竈市 東松島市	環境省の設定した福島から青森までのコース。松島では、塩釜港から浦戸諸島経由で宮戸島、野蒜へ抜けるルートが設定されている。湾内の自然や歴史を感じることが出来る。

第6節 松島の価値

第3節から第5節では、“松島の風景”を構成する自然と、自然とともにある暮らしと歴史、それを眺める観賞の場の具体例を紹介した。“松島の風景”は、これらの観賞という感動体験を通じて、芸術活動で映され、また浄土への入口として人々に認識されてきた。こうした風景の意味づけが長い時間の中で全国に蓄積されることで、今では“松島の風景”イメージが広く国内で共有されている。そして、それは現在でも観賞を通じた追体験で人々を魅了し、あるいは現代的感性でもって新たな感動を生み出している。

したがって、ここで松島の価値を見出すとするならば、それは「自然の特異な状態とそこで営まれる人々の暮らしのつくりだす風景が、観賞や芸術活動によって魅力あるものとして共有されていること」といえる。そして、それはまた今日的な諸活動を通じて掘り起こされ、高められていくものである。



【価値】“松島の風景”が魅力あるものとして共有されていること

第3-9図 “松島の風景”の構成と価値